

今治市観光振興計画



平成21年3月

今 治 市

はじめに

現在、国においては「世界に開かれた観光大国」に向け観光立国推進基本法を策定し、昨年10月には「観光庁」の設置を実現するなど観光を21世紀における日本の重要な柱として位置付けしています。また、地方においても全国の都道府県や市町村では、地域の活性化や振興策として、観光事業への取り組みが活発化してきています。

こうした取り組みは、人々の価値観や観光志向の多様化、社会構造が変化する中で、従来型の観光に関する視点や意義の見直しが求められていることの証左でもあり、とりわけ、地方において、観光事業がまちづくりに果たす新たな役割を期待されています。

今治市は、海峡がまちの真ん中を貫く地勢であって、来島海峡大橋を始め島々を渡す数々の大橋が織り成す人工美と自然景観、穏やかな気候、海や山の豊かな幸、特色ある伝統文化を残す島々の様々な観光、歴史・文化施設や地域興しの活動等素材（地域資源）に満ちています。また、造船・海運・舶用産業が集積する世界に冠たる海事都市であり、日本一のタオル産地であって、これら古い歴史を持つ地場の産業群は立派な地域資源のみならず異彩を放つ観光資源でもあります。

各地域の個々の素材が持つ潜在力を引出し、これらが生きいきと活動しコラボレーションすることから生まれる深みと広がり、オンリーワンの魅力など、今治の資源を総合的・有機的に機能させ外に向かって発信力を高めていくことを目標に、「地域資源活かしのシナリオ（観光のあり方）」を明確にする必要があります。加えて、必要な官民共通の仕組みや仕掛け、役割分担（協働）、その実行を担保する推進体制の再構築や行動計画などをまとめる必要があると考えています。

このため、本観光振興計画は、市民、企業、各種関係団体、行政などのあらゆる分野の人々が観光へのまちづくりに「協働」し、実践していくために、その方向性を示し、今後の取り組みの指針となるよう市民参加による「今治市観光振興計画策定委員会」を設置し、新たな今治市観光振興のあり方について検討を行っていただき、パブリックコメントとして広く市民の意見を伺いながら策定いたしました。

計画の策定に当たり、熱心にご議論していただきました今治市観光振興計画策定委員会の委員各位をはじめ、市民の皆様から貴重なご意見、ご教示を賜りましたことに対し、心からのお礼を申し上げます。

平成21年3月

今治市長 菅 良二

目次

第1章	計画の前提	1
	1-1 策定の背景	1
	1-2 計画のフロー	3
	1-3 現状と課題	3
	1-4 現状と課題からの計画方針	6
第2章	基本計画	7
	2-1 意義と役割	7
	2-2 期間	7
	2-3 目標	8
	2-4 目標を具現化する方策	9
第3章	推進体制	27
第4章	実施計画	30
	4-1 計画の位置づけ	30
	4-2 計画の検討方針	32
	4-3 施策プラン図	34
	4-4 提案施策	35
付属資料	今治市観光振興計画策定の経緯	
	今治市観光振興計画策定委員会委員名簿	

第1章 計画の前提

1-1 策定の背景

(1) 全国規模で進む観光への注目とまちづくりへの取り組み

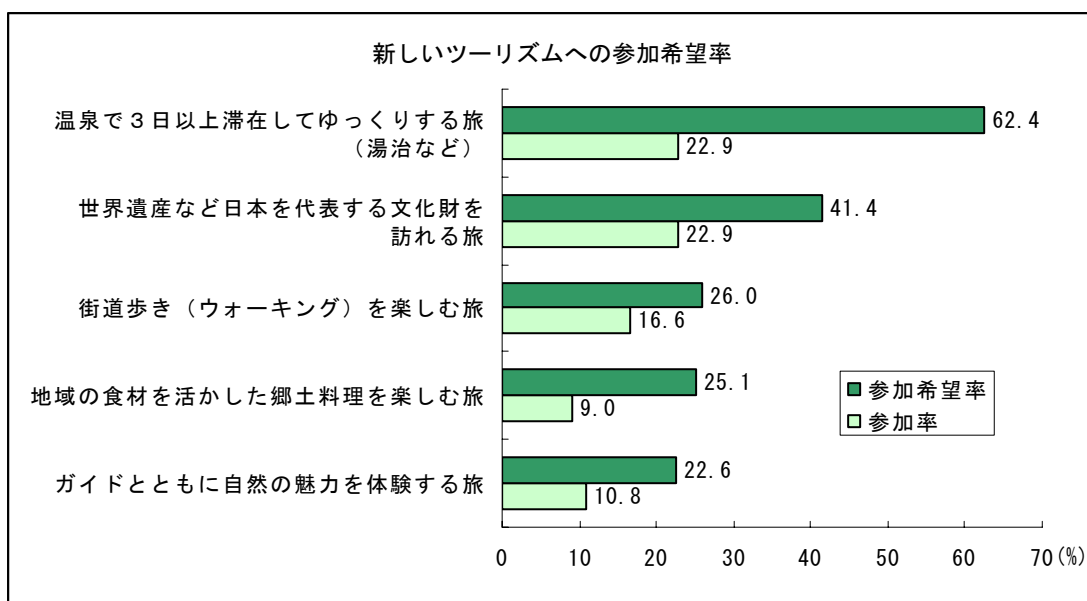
我が国においては、観光立国行動計画が策定され外国人に訪日を促す「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が展開され、国内観光では神社仏閣や景勝地・温泉地などを巡る団体型のものから、グループや個人がそれぞれの関心やテーマを大切にする観光交流へと性格を強めています。そして同時に、地域が持つ固有の資源の活用、伝統文化等の掘り起こしや各自治体間での地域間競争が激しくなっている状況で、地域情報発信及び多様な交流の促進などの効果も見直されています。

そして全国の地域・市町村において、観光を地域づくり・まちづくりの戦略として、また、地域産業経済に波及効果の高い分野として位置づけ、積極的に振興が図られようとしています。

(2) 観光指向の多様化、社会構造変化のなかで進む観光のありかたの見直し

現在、国民の観光・ツアー先は広く国内外に及んでいますが、行動形態においても団体から小グループ・個人へ、そして個々の関心・テーマの重視などから、どのような旅を求めるかについても多様なものとなっており、観光客の行動と受け入れ側の対応面において、構造的な変化が進んでいます。

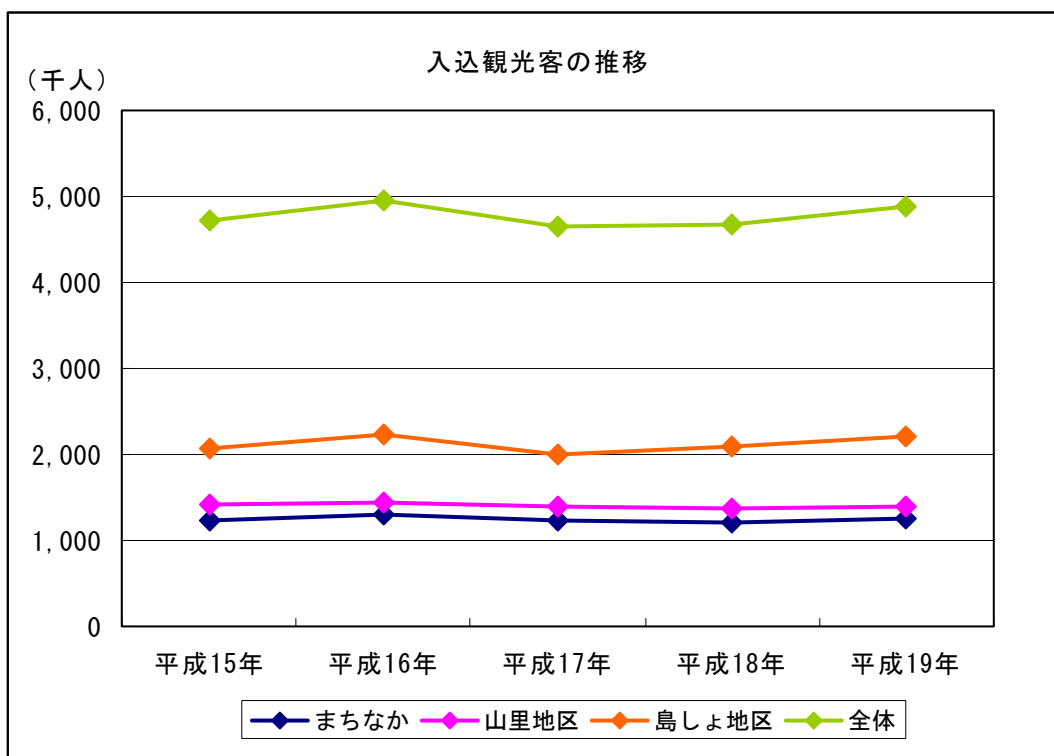
これまで観光地としての地位を築いてきた多くの地域で、観光客の減少や、にぎわいの衰えなどに直面する例が見られると共に、これら地域を含め、新しい視点から地域資源の再評価・見直し及び観光事業のあり方などについて検討し、観光振興の方針を再構築しようとする動きが生まれています。



(3) 観光入り込み客の増加への新たな取り組みの模索

瀬戸内海国立公園という国内有数の多島海景の観光地として歩んできた今治市においても、観光への指向性や観光行動が変化する中で、観光客数が微増にとどまり、関連事業などにも厳しい状況がみられるようになりました。

こうした中、市の観光地としての考え方や集客の視点、地域資源の見直しなどが開始され、新たな観光プランへの取り組みが求められるようになりました。



(4) 合併による新たな地域づくり

平成17年に12市町村が合併し、今治市として新たなまちづくりが始まりました。これまでも風光明媚、海の資源と自然環境に恵まれてきた今治市ですが、合併によりさらに豊富な地域資源を持つ市として、観光や交流に対して、新たな期待が高まりをみせています。

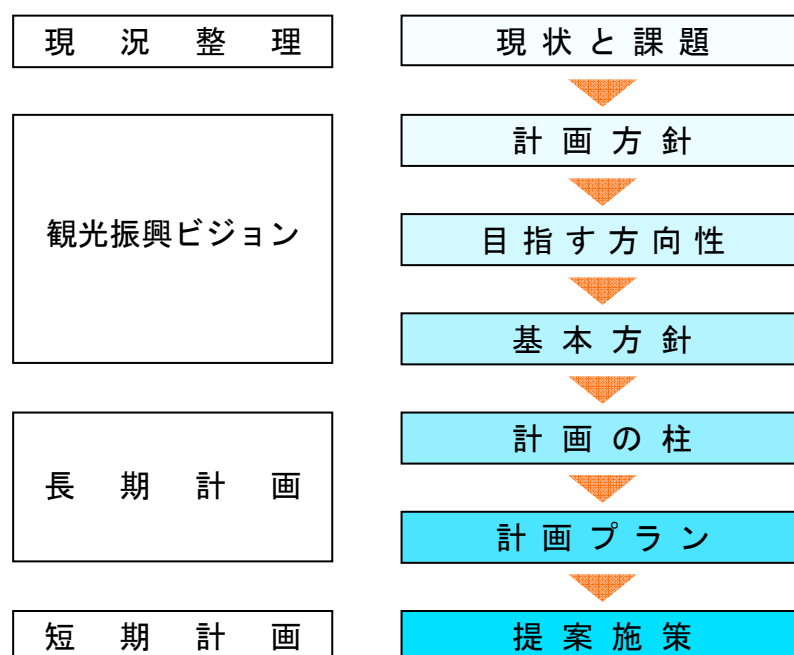
◆しまなみグリーンツーリズムの実績

(人)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
体験メニュー利用者数	2,735	4,196	5,022
潮流体験利用者数	5,715	6,764	15,841
合計	8,450	10,960	20,863

(今治市観光課資料より)

1-2 計画のフロー



1-3 現状と課題

(1) 通過観光の増加

今治市は温暖な気候で、来島海峡や多くの島々がおりなす優れた景観を有しており、古くから海上交通の拠点としても発展してきたところで、愛媛県の中核都市でもあります。

しかしながら、四国側の観光の玄関口として通過観光地の色合いが強いという課題を抱えています。このことは、中国地方から四国側観光への交通アクセスとして、瀬戸内しまなみ海道の年間総交通量は、約800万台を超えているにもかかわらず、市の民間を含めた観光スポットの入り込み客数が、減少しているところも見られる状況等からも読み取れます。

また、観光交流に関連して飲食、宿泊、マリンレジャー、温泉及び交通・運輸事業等、利用客の増加も微増であることから経営が厳しい状況も生まれており、事業環境の改善が求められています。



来島海峡大橋



今治IC

(2) 全国的ブランドの観光地道後温泉隣接による埋没化

今治市は、道後温泉という全国的に有名な観光地域に隣接し、瀬戸内しまなみ海道、今治港、JR今治駅など交通の拠点として、愛媛県の主要な玄関口の性格を持っています。

特に、従来から海に囲まれ温暖な気候の今治市は、温泉、海や山の幸、そして中国地方などからも近くて出かけやすい地域です。

こうした中で、市独自の個性を発揮できる観光のまちづくりが求められています。



道後温泉(松山市)



鈍川温泉

(3) 豊富な観光資源の未活用

今治市は、瀬戸内海が市域を横断する地形であり、自然公園を含む緑の多い山々と川、そしてその河口には、長く続く海岸線があり、近くには多くの島々が望める各所の展望地などのすぐれた環境に恵まれ、温泉地やレンタサイクル等の体験や、新鮮な柑橘・魚介類等観光地としての豊富な資源素材に恵まれています。

また、観光・交流において重要な役割を担う農林漁業者や加工品等の事業者、さらには、本市の歴史・伝統文化を受け継ぐ市民などが潜在的にもっている力も、今後さらなる期待ができるものといえます。

このような、潜在的な観光資源の力を引き出すまちづくりが求められています。



レンタサイクル



急流体験

(4) 交通アクセスの結節点

陸路として、今治市の瀬戸内しまなみ海道の島々にはそれぞれインターチェンジ（IC）が設置されていて、陸地部には今治北IC、今治IC、今治湯ノ浦IC、JR今治駅等があり、ここを介して四国の各地域や中国地方とつながっています。また、海路としては、今治港を基点とする海の航路が生活・観光ルート的一端を担っています。

こうした鉄道・道路・航路に対して、ビジネスや生活が交通にスピードを求めてきたのに対して、生活の余暇利用や観光では、速さだけにこだわらない時間の過ごし方が今後評価されようとしています。

高縄半島の先端に位置し、複数の交通の結節点という地理的特性を活かすことで、多方面からの人の流れを受け止め、送り出すことのできるターミナル性の高い観光のまちづくりも求められています。



今治駅



今治港

◆今治市へのアクセスと瀬戸内しまなみ海道



(5) 観光ニーズの変化

今、観光に人々が求める指向が多様化する中、観光行動も団体からファミリーへ、小グループや少人数などへと多様化の時代を迎えています。

反面、それまで何の面識も無かった人々が関心や趣味、テーマが一致することで、すぐに新しい仲間をつくるような時代でもあります。

また、個人の観光に対する関心の高まりと、インターネットなどからの多くの情報により、事前に観光地や旅先の内容を確認できる時代ともなっており、本地域においても、観光ニーズの変化を的確にとらえ先取りできる観光のまちづくりへの対応が求められています。

1-4 現状と課題からの計画方針

- 方針-1 通過観光から、目的地としての観光のまちへ
- 方針-2 近隣観光地と共存し独自の魅力を持つ観光のまちへ
- 方針-3 豊富で多彩な観光資源を活かすことができる観光のまちへ
- 方針-4 交通のターミナル性を発揮できる観光のまちへ
- 方針-5 観光指向の変化に対応し、先取りできる観光のまちへ

第2章 基本計画

2-1 意義と役割

(1) 意義

本市ではこれまで観光振興については、今治市総合計画をはじめとする各種計画のなかでその基本的方策が定められてきました。しかしながら、観光指向の多様化や社会構造変化の進むなかで、観光振興をまちづくりに活かす取り組みが重要になりました。

平成17年の市町村合併を機に、官民あげて本地域の観光振興を図るため、その共通の目標や行動指針となるべき計画を、「観光振興計画」として策定することといたしました。

この計画では、四国の玄関口という今治市の観光・地理的特性を活かしたうえで、近隣地域との交流の増進を図ります。また、観光振興による住民生活及び地域産業の活性化を目指した新しいまちづくりにも貢献していくために、観光の視点からみた市民と行政の共通の目標となる将来の観光都市像と、それを実現するために必要な方針を明らかにします。

(2) 役割

観光振興計画は、今治市の将来像「**ゆとり彩りものづくり みんなで奏でる 海響都市 いまばり**」や観光を取り巻くさまざまな環境変化を踏まえ、本市の潜在的観光資源を最大限に活かし、官民あげて新たな観光振興によるまちづくりの活性化を目指すための共通の指針となるものです。

新市建設計画で示され、総合計画にも盛り込まれた「**また訪れてみたいまち “今治”**」を目指すものです。

2-2 期間

観光振興のビジョンは、期間を10年と定めます。また、基本計画は平成21年度から平成25年度までと定め、観光振興計画を策定します。

なお、計画の見直しは、5年ごとを基本とし「総合計画」の改定や社会経済情勢の変化等に適切に対応していきます。

2-3 目標

四国の玄関口に位置し、中国地方をはじめ都市圏からの人やモノの流れを受けとめる本市は、特徴的で美しい多彩な自然・景観を体験する観光・交流のまちづくりを目指し、自らが個性ある観光・交流拠点となることで、愛媛県及び瀬戸内海の観光交流の核となり、広域圏観光への取り組みを行います。

□キーワード

「体験、学習、交流」観光のまちづくり

□目標

○豊かな自然や地域に息づく文化を活かした今治のブランド力の強化を行い、情報を発信し、集客力を高めます。

○訪れる人々をおもてなしの心でお迎えします。

○近隣地域とのビジネス、生活、文化、観光交流の流れをつくり、育てます。

観光交流の核とは、魅力や新鮮な話題を持ち、人やモノを引きつける力を出すことができることです。

瀬戸内海の景観は日本の原風景の一つであり、瀬戸内しまなみ海道沿線の景観はその代表ともいえます。これを全国に発信するために、まだ原石のまま眠っているともいえる観光交流資源を磨き上げ、知的欲求や体験・探究心が満たされるような新しい観光スタイルを提供します。

また、市民が地域の自然や文化を体験する機会を増やすことにより、来訪者への、“おもてなしの心”を育み「また訪れてみたいまち“今治”」を目指した受け皿づくりを推進し、観光・交流の活性化を図ります。

これからは、観光都市としての内容の充実を図ることで、街中への集客だけでなく、瀬戸内しまなみ海道や中四国地域全体にもその集客効果が及ぶような力を持てることを目指します。

2-4 目標を具現化する方策

海響都市観光のブランド＝「いまばり」の創出と向上

(1) 観光都市としてのブランドの必要性

これからの観光振興にあつては、個々の観光資源の磨き上げと観光地としての主要拠点づくりを大事にする一方、それらがひとつの強いイメージを形成し、観光情報の発信や集客力を発揮することが求められます。

たとえば「観光地・北海道」は、独特の気候・風土と大きな景観、物語性のある歴史、豊かな食べ物などを背景に力強いブランド力を表現しています。

今治市の観光振興のあり方としても、集客やイメージ発信を強力に担う拠点づくりなどに努めつつ、都市の観光・交流の総合力の表現として、観光都市のブランドとしての「いまばり」の創出と、資質の向上を目指すこととします。

(2) 観光都市としてのブランド創出のための新たな海響都市観光像

今治市には、多様な観光資源やイベントがあり、観光や交流を担う人々がいます。観光資源は海、山、川、市街地にわたり、食や遊び、景観やたたずまいの楽しみなどがつまっています。

しかしながら、多様さの一面として活動が分散しており、観光振興が官民共通の目標に基づき、総合的・体系的に展開されていくまでには至っていませんでした。

そのため、愛媛県及び瀬戸内海の観光交流の核になるためには、個別の特産品や観光スポットをPRするだけでなく、地域・都市の魅力を「海響都市観光像」として創出し、磨いていくことにより、観光客のさまざまなニーズを受け入れることのできる資質の向上を図っていくこととします。

(3) 新たな観光都市像の位置づけ

今治の豊富な観光資源を要素として、新たな「海響都市観光像」を創りあげていきます。このとき、さまざまな目的の訪問者のうち、ひとりでも多くの人々が共通して魅力的だと感じられるものを地域の価値として位置づけ、都市像の創出を図っていく必要があります。

このような視点から、他に誇ることができ、今治市の新たな観光都市像に位置づけられるものとして多面的な価値を有する『島しょ（海）』、『山里（山）』、『まちなか（街）』をキーワードとしていきます。

◇海（島しょ地域）の魅力

①海や瀬戸内しまなみ海道の橋がある風景は、今治の重要な観光資源です。



多々羅大橋



宮窪の漁師市

②瀬戸内海には、海運商都としての経緯や歴史資源としての大山祇神社、能島、来島等や、それぞれの島に継承される祭りなど、今治の歴史と文化を持つ優れた資源があります。



大山祇神社



虫送り(伯方島)

③海の幸や資源は、物産づくりや健康づくりなどにおいて、大きな潜在力を残しています。



来島鯛



マーレ・グラッシア大三島(海水風呂)

④瀬戸内しまなみ海道が、まちをひとつに結んでいます。



亀老山からの風景



大三島橋

⑤来島海峡をはじめ瀬戸内海国立公園の「多島海景の織りなす姿」は、全国的にも他に例をみないものであり、高い評価を得ています。



船折瀬戸



宮窪瀬戸

◇山（山里地域）の魅力

①国立公園や県立自然公園など優れた自然環境の魅力に恵まれています。



鴨池海岸



鈍川溪谷

② 県都松山に隣接する地域で道後を訪れる多くの観光客の利用しやすい地域です。



玉川ダム



玉川湖畔の里

③ 四国八十八ヶ所の札所や多くの文化財が点在する歴史資源に恵まれた地域です。



五十八番札所仙遊寺



妙見山古墳

④ 山里地域として多くの果樹生産の盛んな地域です。



みかん



梨

◇街（まちなか地域）の魅力

①城下町として栄えた風情を残す今治市の中心地区で、今治城をはじめ今治の歴史と文化を持つ優れた資源があります。また、世界的に著名な建築家、丹下健三氏の建築物も多く点在する地域です。



今治城



今治市公会堂

②今治港や高速道路の基点として、交通のターミナル性を有した地域です。



今治港



今治北IC

③造船やタオル等地域の基幹産業が集積する地域です。



波止浜湾



タオル工場

④唐子浜や志島ヶ原をはじめ白砂青松の自然環境に優れた地域です。



志島ヶ原



唐子浜

(4) 海響都市として観光の将来イメージ

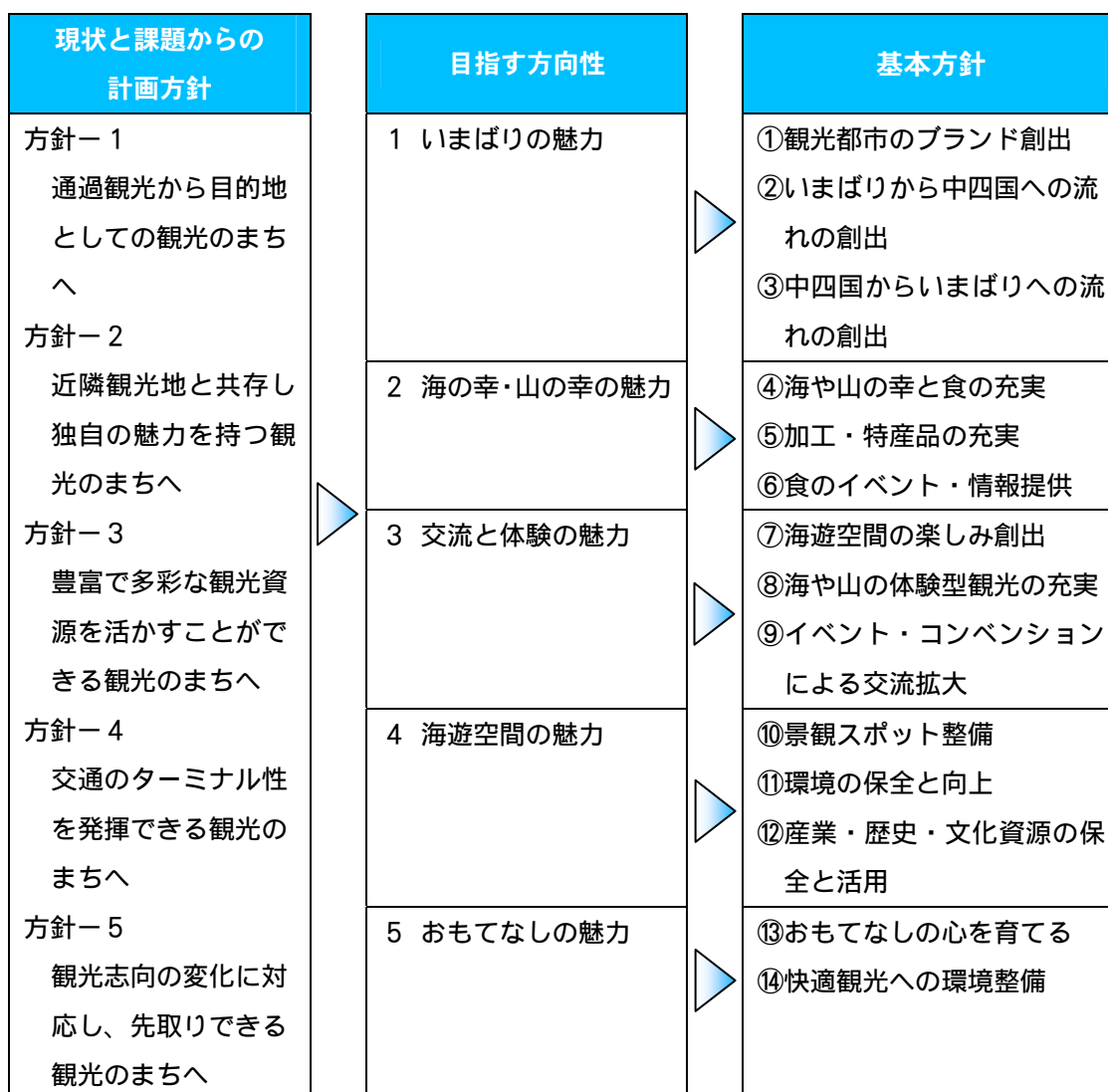
今治市が、観光資源として他に誇ることのできる「楽しく遊ぶ海の道」を強調した観光振興によるまちづくりを推進します。

今治市は海に、人・モノの交流の拠点としての「港」があり、地場産業が活況ある「まち」であり、そして美しい海岸沿いは、温暖な瀬戸内海気候と多島海景を望む絶好のロケーションから、市民をはじめ、文人や観光客など多くの人々に愛されています。

また、最近では、海の景観を楽しむマリンレジャーやハイキング、サイクリング、そして新鮮で味わい深い豊富な海の幸、山の幸などを目的にした人たちが訪れるようになりました。

今治市の観光をこのような海を中心とした新しい観光スタイルで再構築し、今後、個々のスポットがもつ海、山、街の魅力を体系化するとともに、まち全体の観光の色として発信できるような取り組みを進め、観光客に奥深い「いまばり」の魅力をさまざまな形で満喫していただきます。

(5) 基本計画の体系



(6) 目指す方向性

これからの観光のまちづくりの内容を示し、同時に海響都市観光のブランドとして「いまばり」を支える柱となるべく、「観光客の楽しみ・感動」と「この地が自信を持って提供できるもの」が重なるところから、5つの柱を基軸に取り組みを進めます。

柱－1 いまばりの魅力

「いまばりから中四国」へ、また「中四国からいまばり」への流れを創出するために、観光や交流の楽しさ、醍醐味をたくさんの観光客に味わっていただくには、地域資源や環境を深く掘り下げて提供していくと同時に、観光客・旅行者の求めるもの、場所及び機会を、広域として提供する方法があります。

本市は四国の玄関口であり、観光都市のブランドとして「いまばり」の価値を高め、国内外からの観光交流の核になることで、広域観光のニーズを満たすことのできる“まち”に成長していきます。



柱－2 海の幸・山の幸の魅力

観光や旅をする人の楽しみといえば、旅先での“食”にあります。今治の豊かな海の幸・山の幸の食は、多くの観光客に楽しんでいただける魅力を持っています。

また、海や山の幸は食だけでなく、特産品づくりなどを支えるものであり、魅せる今治の柱となるものです。



あまごの炭火焼き



たこ飯



いのぶた鍋



やきとり



さいさいきて屋

柱－3 交流と体験の魅力

観光の語源は、「国の光を観る」にあるといわれています。観光の原点は、単に名所や風景など「光をみる」ことだけではなく、ひとつの地域に住む人たちが、その地に住むことに誇りを持つことができ、幸せを感じられることによりその地域が「光を示す」ことにあります。

今治は、松山や中四国の広い地域とのつながりのなかで、観光客の流れをお互いにつくり出し、魅力ある広域観光圏をつくることで、観光都市のブランドをつくり、向上させることができます。

また、海や豊かな緑を受け継いだ自然な生態、生活と文化、そして暮らしや生産の場等を提供することで、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムやエコツーリズム*に通じる楽しみを味わうことができます。



農家民宿べじべじ



みかん狩り



観光地引網体験

*グリーンツーリズム：緑豊かな農村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動

*ブルーツーリズム：海辺での生活体験を通して、心と体をリフレッシュさせる余暇活動

*エコツーリズム：その土地特有の自然、生活文化などの資源を持続させていくような旅行

さらに、造船、タオル、瓦、漆器、食品の製作体験、産業観光等や海と島々の景観を活かしたコンベンション（見本市・シンポジウム・博覧会）、コンベンションの後の催しや懇親会等の開催を観光都市として誘致し、今治市の特徴的で多様なブランドを向上させます。



伯方塩業(株)大三島工場



進水式



タオル美術館 ICHIHIRO



桜井漆器



かわら館

柱－4 海遊空間の魅力

観光や旅の大きな喜びは、心や身体を戸外の空間に自由に解き放つことにあります。海岸線が長く延びるあちこちで磯遊び、スポーツ、レジャーなど、海での遊びに関してのさまざまな楽しみが体験できます。

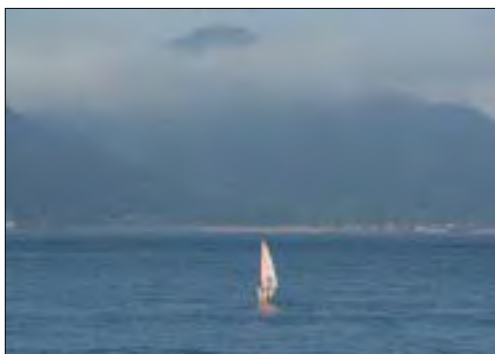
今後、これら多くの観光スポットの活用を進めることで、海を活かした遊び空間がもつ潜在的な力を引き出し、観光都市のブランドを創出し向上させます。



沖浦ビーチ



釣り船



マリンスポーツ

柱-5 おもてなしの魅力

食べ物のおいしさ、遊びやすさ、そして主体的に参加することのできる楽しみなどを十分に感じることができるかどうかは、そこにおもてなしの心や気持ちが示せるか否かにかかっています。市内のさまざまな場面で、おもてなしの気持ちが示せるまちとなり、観光都市のブランドを支えます。



島四国(おせったい)



ボランティアガイド



今治地方観光情報センター



観光案内標識

(7) 基本方針

1 いまばりの魅力

四国の玄関口としての本市が、観光都市のブランドとして「いまばり」の価値を高め、国内外からの観光交流の核になることで、集客・交流の拡大とそれぞれの地域内が持つ特色の顕在化、活性化が図られ、広域で観光客のニーズを満たすことができる“まち”に成長していきます。

①観光都市のブランド創出

観光都市像の創出、観光都市のブランドとして「いまばり」の形成と価値向上により、集客・交流の拡大、そして観光の活性化と振興の実現に努めます。また、海外からの観光客にも対応できるブランド構築も目指します。

②いまばりから中四国への流れの創出

今治への訪問客が、中四国全体の観光地にも立ち寄るように、資源の整備を進めるとともに、観光振興方策をとおして中四国地域と相互が力を発揮し、補完しあえるまちづくりを牽引していきます。

③中四国からいまばりへの流れの創出

中四国を訪れる観光客が、今治にも立ち寄れるように、魅力ある整備を進めるとともに、多様なニーズにあった広域観光周遊が連携できるように、広域観光圏の形成の取り組みを進めます。

2 海の幸・山の幸の魅力

食べ物は、観光や集いの中で欠かせないものであり、幅広く人々に訴える力をもつものです。今治の魚介類、果実そして野菜などは、その料理とともに既にたくさんの人に喜ばれ、高い評価を得ており、今治ブランドの大切な要素となっています。

これからは、さらに市内のあちこちで、安心して安全な新鮮な魚介類が楽しめるまち、そして地元特産品が提供できるまちを目指します。また、伯方の塩など海が与えてくれるものを活用した商品やサービスの開発及び導入により、心身の健康を高めようとする人々に歓迎され、選ばれるまちを目指します。

また、こうした海や山の幸や食をテーマとしたイベントの開催などにより、楽しさや情報発信を高めるまちづくりを目指します。

④海や山の幸と食の充実

海や山の素材を活用した調理やもてなしに工夫を凝らし、市内のあちこちで食を楽しむことができる店づくり、まちづくりを進めます。

⑤加工・特産品の充実

さまざまな海や山の幸を活用し、新しい特産品づくり、特色あるサービスづくりに取り組みます。

⑥食のイベント・情報提供

今治の風土の中で受け継がれてきたたくさんの郷土料理を大切にし、豊かな海や山の地元食材の利活用を推進する食づくりのコンテスト、歴史や伝統文化と食などの観光コースづくり、食をテーマとするコンベンションの誘致など、海や山の幸を活かす取り組みを広げ深めていきます。

3 交流と体験の魅力

夏の磯遊びや海水浴、四季をとおしてのダイビング、釣り、地引網及びクルージングなど、今治にはきれいな海岸と海を活かした遊びがあります。また、優れた景観や環境の中での山歩き、浜歩きは確実に人気を高めつつあります。

今治は、安心して海と山の空間に親しみ、遊ぶことができる観光のまちづくりを目指します。また、自然や生活・文化、産業を分析し、体験できるようなコース・プログラムの開発や導入などにより、見て歩いて体験できるまちを目指します。

さらに海、山の遊空間をイベント・コンベンションの場として、またアフターコンベンション（会議やビジネス後の楽しみ）の場として活かせるまちづくりを目指します。一方では造船やタオルの街として造船所やタオル工場などの景観やファクトリーツアーなどの地域の産業・歴史・文化の活用と育成を大切にすまちづくりを目指します。

⑦海遊空間の楽しみ創出

安心して海と山の空間に親しみ、遊ぶことができるよう、拠点となる場の整備を進めると共に、交通・情報網の整備やネットワーク化を進めます。また、海遊空間の楽しみに和み・安らぎを与える温泉等の利活用を進めます。

⑧海や山の体験型観光の充実

海や山の自然、環境、育まれた文化、産業などを掘りおこし、楽しむことができるよう、グリーンツーリズム、ブルーツーリズム及びエコツーリズムなどの手法を用いたプログラムコースづくりの検討を進めます。

⑨イベント・コンベンションによる交流拡大

海や山の魅力的な空間を、イベントやコンベンションの交流の拠点の場として活かせるまちづくりを進めます。

4 海遊空間の魅力

瀬戸内海の中央に位置し、来島海峡の潮流や来島海峡大橋、点在する島々が織りなす景観は、今治ならではのものであり、今治の観光都市のブランドを特色づけるものです。

また、農・漁村の暮らしぶりやたたずまい、今治の城下町・港町としての風情は、都市に住む人びとにとっての非日常であり、活力を生み出す力を発揮するはずです。

こうした多彩な景観スポット（ビューポイント）が大切にされると同時に、海岸、河口、岬、そして砂浜や海が清浄に保たれ、訪れる人を楽しませ、和ませてくれるまちを目指します。

⑩景観スポット整備

海と橋、農・漁村の集落、港や街などがつくりだす多様な景観スポット（ビューポイント）が活かされるまちづくりを進めます。

⑪環境の保全と向上

豊かな自然、環境及び景観を損なうことなく、きれいな海浜を保全することができるよう、環境を大切にする気持ちを共有し、その取り組みの盛んなまちづくりを進めます。

⑫産業・歴史・文化資源の保全と活用

この地に住み、滞在したたくさんの人々のまなざしや受け止め方にならないがら、まちの良さを再発見でき、歴史・文化の足取りをたどり、今治の歴史文化の体験を通じて楽しめるまちづくりを進めます。

また、著名な建築家の施設を活用した観光推進をめざします。

5 おもてなしの魅力

観光や旅に、心の満足を求める傾向が高まるほど、おもてなしの重要性は増していきます。旅の快適さを支えるうえでも「おもてなしの気持ちを示す」ことが重要な役割を担っています。

観光交流に、おもてなしの気持ちを示すあり方は、大きく二つあります。それは「人が示すもの」と「地域として示すもの」です。

「人が示すもの」としては、心のこもった観光サービスの提供、市民によるボランティアガイド、道を聞かれたときの市民の温かい受け応えなど、多岐にわたります。人によるおもてなしで、心の豊かな観光のまちを目指します。

「地域として示すもの」としては、今治を訪れるだれもが無理なく快適に目的地にたどり着けること、観光・交流を楽しめること、必要な情報が得られることが大切です。具体的には、観光拠点までの道路・交通網整備、観光看板及び外国人のための道路標識から観光ホームページやパンフレットなどがそれらの役割を担います。これらの効果的な整備と充実により、おもてなしの質の高いまちを目指します。

⑬おもてなしの心を育てる

観光に携わる事業者から市民に至るまで、自然におもてなしの気持ちを示すことができるよう、さまざまな機会を通じて、おもてなしの心を育てるまちづくりを進めます。

⑭快適観光への環境整備

道路・交通網整備、JR今治駅や今治港などの観光拠点の看板等の整備、分かりやすい道路標識の整備及び適切な観光スポットでの観光情報の提供などを進めます。

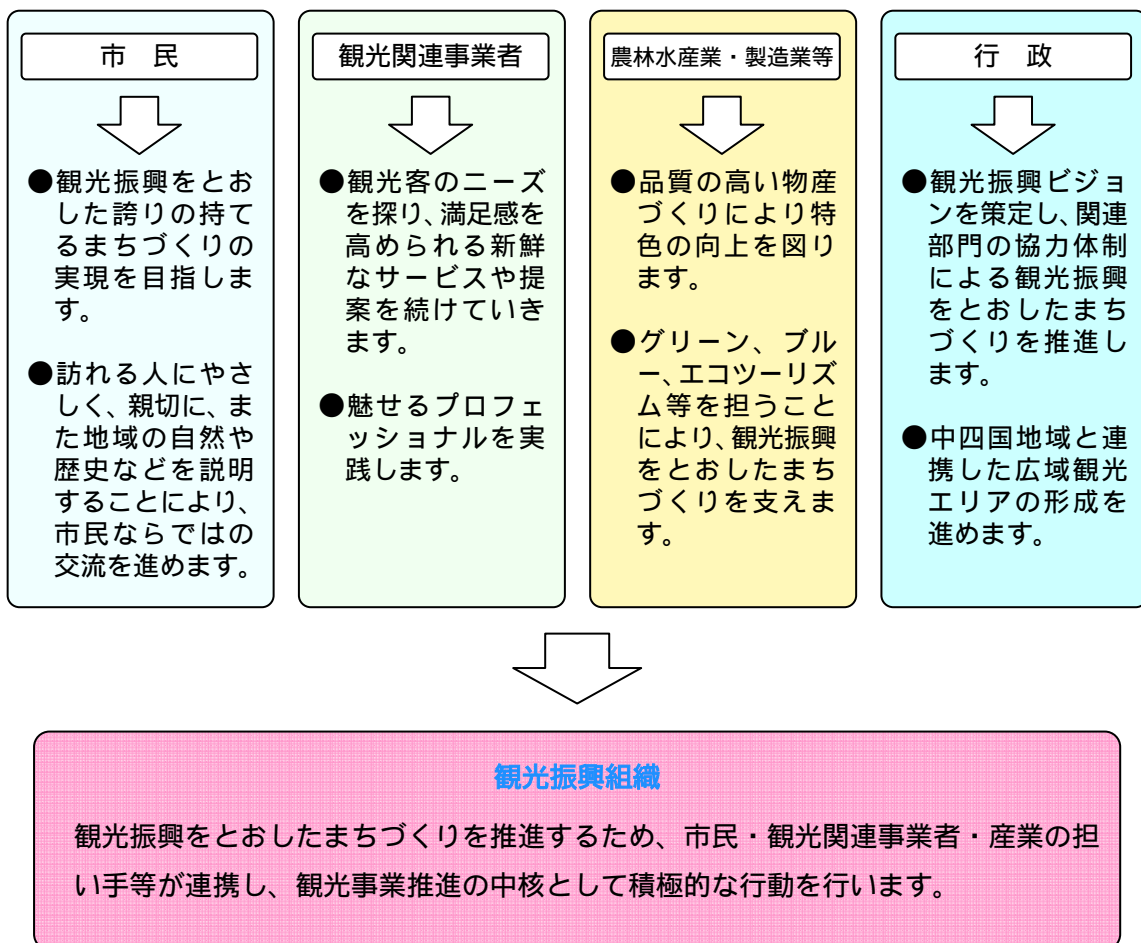
第3章 推進体制

都市としての観光や交流の機能を高めていくためには、レジャー、飲食及び宿泊サービスなどの観光事業を中心としながらも、的確な情報の提供、特産品をはじめとする買い物の楽しみの提供、地元についてのきめ細かいガイドサービスの提供など、さまざまな市民や団体の取り組みが必要となります。

また、これからの観光のまちづくりにあたっては、訪れる人々に満足感を与え、魅せる観光都市「いまばり」をつくりあげていくために、市民・団体や地区を単位とする参画体制に加え、市民、観光関連事業者、産業の担い手と団体及び市が適切な連携を組み、意欲ある協働体制により取り組みを進めることが大切であり、既存観光関連事業者や活動団体の組織強化や統廃合も検討し、国際観光や国内観光の新しいニーズに対応した組織の構築が求められています。

このことから、市民・団体等が共通の観光目的、情報及びルールなどを共有し、自発的な取り組みを進めることのできる市民主体の観光推進体制づくりを目指します。その一環として、地域活性化に必要な観光振興組織の設立など、新たな取り組みに必要な組織の設立と運用などにも努めることとします。

◆観光振興組織の役割

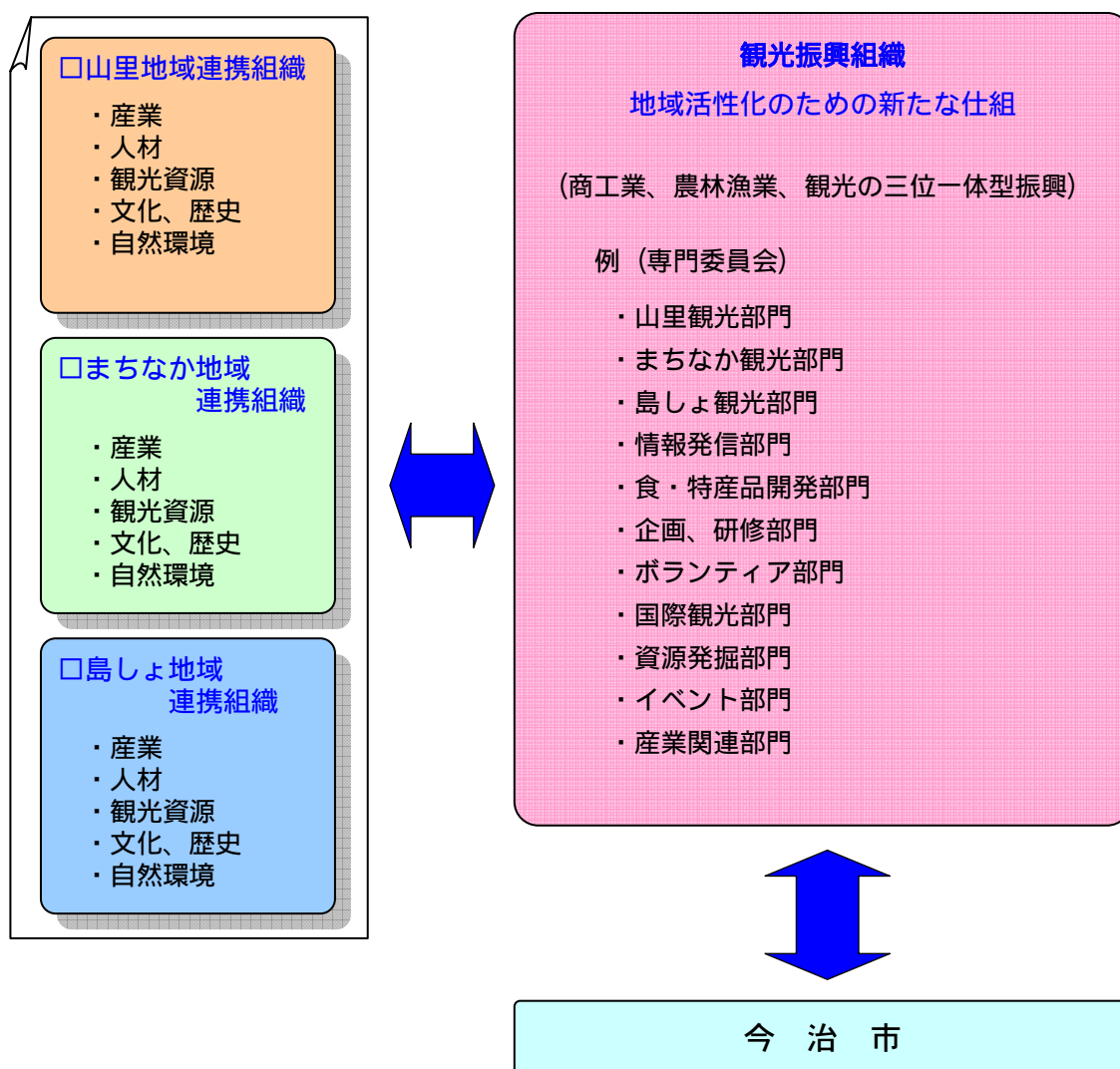


◆観光振興組織体制

環境への関心の高まりなど、社会的背景の変化により観光志向も著しく変化しています。そのような中で、新たな観光需要に対応するためには、地域の資源の再生や新たな資源を発掘し活用することが重要です。

そこで、各地域の個性豊かな資源を地域の市民・団体・企業参加により新たな視点で再構築し、地域としての観光スタイルを構築し、さらに今治ブランドとして各地域の連携した多彩な観光メニューの提供や情報発信、行政との連携による広域圏観光を推進する体制を構築します。

●観光振興組織構築イメージ

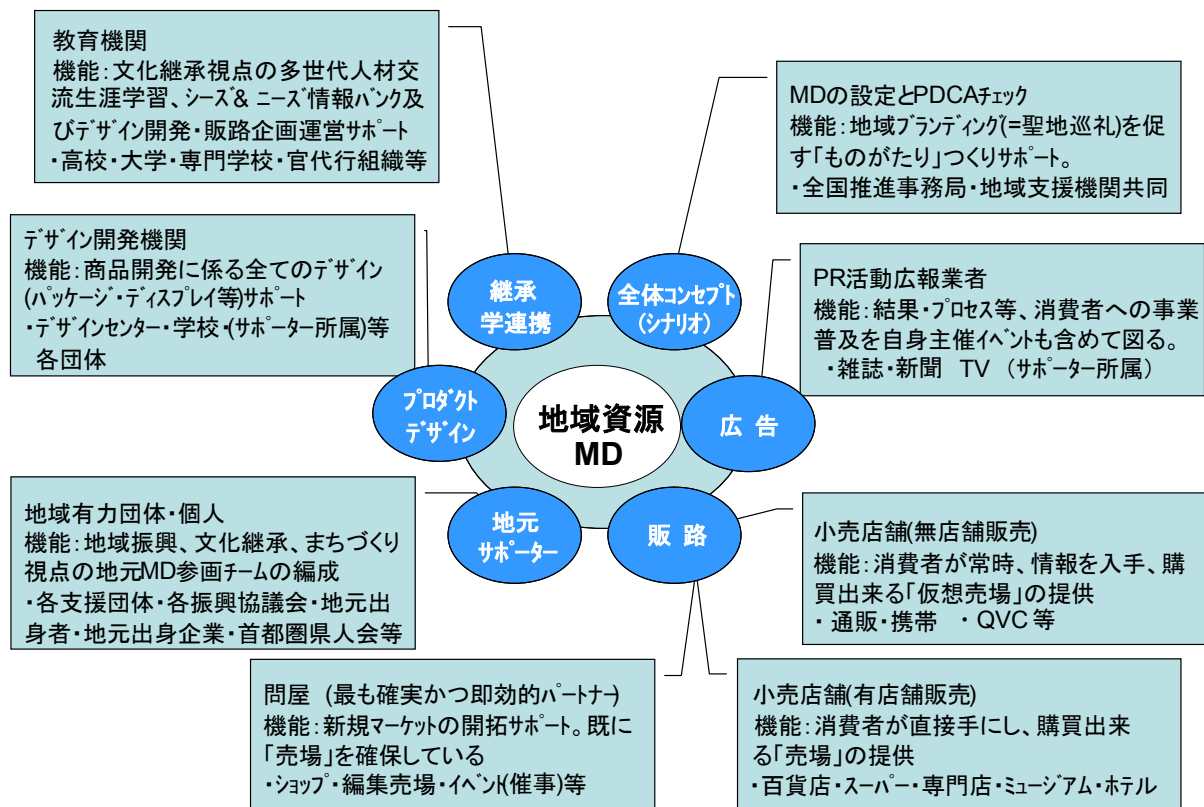


◆観光振興組織のあり方

観光振興組織の役割として、地域住民と観光客の交流やおもてなしの心を持った出会いが求められています。これらの人的資源と観光関連産業が一体となる地域資源パートナーの連携構築が最も重要になります。

また、連携による観光客のニーズを的確に捉えた、多彩な観光情報の提供や「いまばりブランド」としての新たな連携商品の開発や販売など、観光客のニーズに対応した提供メニューの開発を推進するために、必要な調査・研究・啓発等の活動も組織の大きな役割となることからさまざまな分野の専門家チームによる構成が求められます。

■組織イメージ



“餅は餅屋” 業種横断型のプロチーム編成が求められています。

【用語の説明】

- MD : 事業戦略の具現化を「商品」の側面から考える存在で、中長期的な視野に立ち、商品・サービスの継続的な提案を行い、お客様の満足につなげつつ、最終的には利益創造を目指す役割。(マーチャндаイザー)
- PDCA : Plan (計画)、Do (実施・実行)、Check (点検・評価)、Act (処置・改善) サイクルにより継続的な業務改善をしていくこと。
- ニーズ : 利用者が必要とする。要求する。需要。
- シーズ : 顧客の求めるニーズに対して、企業が新しく開発、提供する特別の技術や材料のこと。
- QVC : 24時間テレビショッピングを放送する専門チャンネル。
- プロダクトデザイン : 製品や製品デザイン

第4章 実施計画

4-1 計画の位置づけ

今治市では、観光振興のコンセプトとして「海響都市観光のブランド＝「いまばり」の創出と向上」を位置づけました。

ここでは、今治市を観光都市としてブランド構築するために、国内で最も有数の優れた自然景観や瀬戸内しまなみ海道等の観光資源を最大の強みと認識し、地域の魅力を最大限引き出す観光振興によるまちづくりを推進することとしています。

今治市観光振興計画は、5つの目指すべき姿と14の方針からなる観光振興ビジョンを踏まえ、観光都市の将来イメージとして掲げた「ゆとり彩りものづくり みんなで奏でる 海響都市いまばり」を実現し、今治市を観光都市としてブランド構築するために、具体的なプログラムを明らかにして、その行動方針を示し実現に向けての取り組みを進めます。

【観光振興のコンセプト】

海響都市観光のブランド＝「いまばり」の創出と向上



【観光都市の将来イメージ】

「体験、学習、交流」観光のまちづくり



- 豊かな自然や地域に息づく文化を活かした今治のブランド力の強化を行い、情報を発信し、集客力を高めます。
- 訪れる人々をおもてなしの心でお迎えます。
- 近隣地域とのビジネス、生活、文化、交流の流を作り、育てます。

「海響都市観光のブランド＝「いまばり」の創出と向上」を強調した観光振興によるまちづくりを推進します。個々のスポットがもつ「いまばり」の海などの魅力を体系化し、まち全体の観光の色として発信できるような取り組みを進め、観光客に奥深い「いまばり」の魅力等をさまざまな形で体感していただきます。



【観光振興ビジョン（5つの目指すべき姿）】

(目指す方向性)	(基本方針)
1 いまばりの魅力	①観光都市のブランド創出 ②いまばりから中四国への流れの創出 ③中四国からいまばりへの流れの創出
2 海の幸・山の幸の魅力	④海や山の幸と食の充実 ⑤加工・特産品の充実 ⑥食のイベント・情報提供
3 交流と体験の魅力	⑦海遊空間の楽しみ創出 ⑧海や山の体験型観光の充実 ⑨イベント・コンベンションによる交流拡大
4 海遊空間の魅力	⑩景観スポット整備 ⑪環境の保全と向上 ⑫産業・歴史・文化資源の保全と活用
5 おもてなしの魅力	⑬おもてなしの心を育てる ⑭快適観光への環境整備

4-2 計画の検討方針

(1) 計画の柱

観光振興計画では、「5つの目指すべき姿」を位置づけました。計画を検討するにあたり、それぞれ「セールス」「食」「プレイ」「環境」「受け入れ体制」について述べた各方向性およびテーマを再整理し、3つの柱立てに構成することになります。

目指す方向性

- 1 いまばりの魅力 **「セールス」**
“これが新たないまばり”といえる戦略の構築と近隣自治体との連携のあり方
- 2 海の幸・山の幸の魅力 **「食」**
“いまばりを食べる”ための多様なプログラム・手法の検討
- 3 交流と体験の魅力 **「プレイ」**
“いまばりを遊ぶ”ための多様なプログラム・手法の検討
- 4 海遊空間の魅力 **「環境」**
“いまばりを見る”ための多様なプログラム・手法の検討
- 5 おもてなしの魅力 **「受け入れ体制」**
“いまばりはできる”と思わせるおもてなしの仕組みづくり

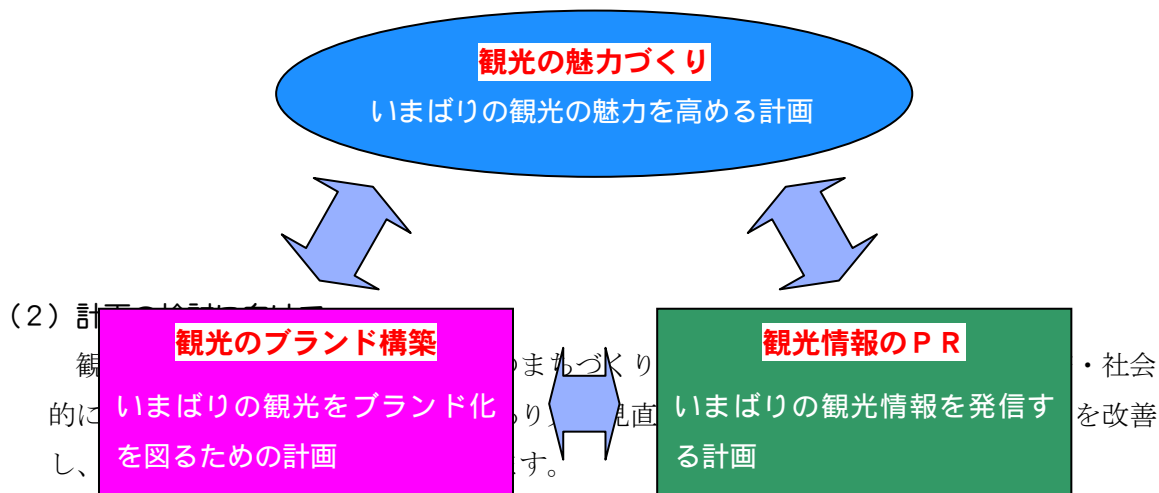


計画の柱

- 観光のブランド構築
- 観光の魅力づくり
- 観光情報のPR

計画では、ビジョンで示した「5つの目指すべき姿」を実現するために、食・プレイ・環境に関する各種プログラムや受け入れ体制の充実を図り、それを売り込むためのブランド化戦略と各種プログラムの情報発信のプログラムを相互に関連づけて展開していきます。

計画の柱立て



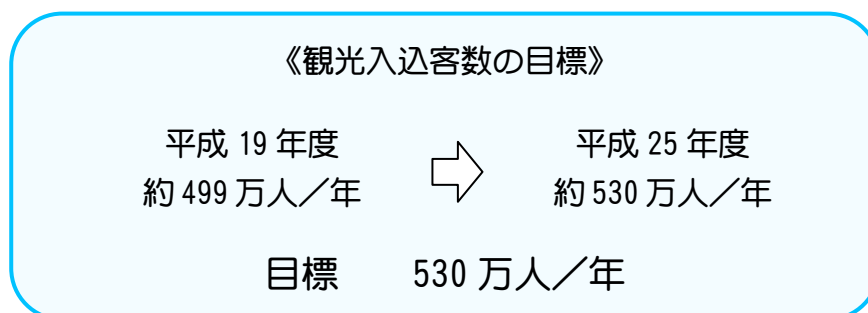
観光のまちづくりを成功のプロセスに導くためには、「これまで起きた内・外部環境の変化」、「今後起こりうる内・外部環境の変化」をそれぞれ考察し、それに基づいて戦略を講ずることが必要になります。従来のような画一的対応ではなく、多面的な取り組みの必要性が求められています。

産業振興を成功させるには、事業の論理上、需要者側の論理と供給者側の論理の交点で成り立つという原則的な規則があります。しかし観光産業は、「感動を売る」商売であるともいえ、一種のサプライズ（驚き）をもって需要者の隠れたニーズを充足させる必要があると考えます。

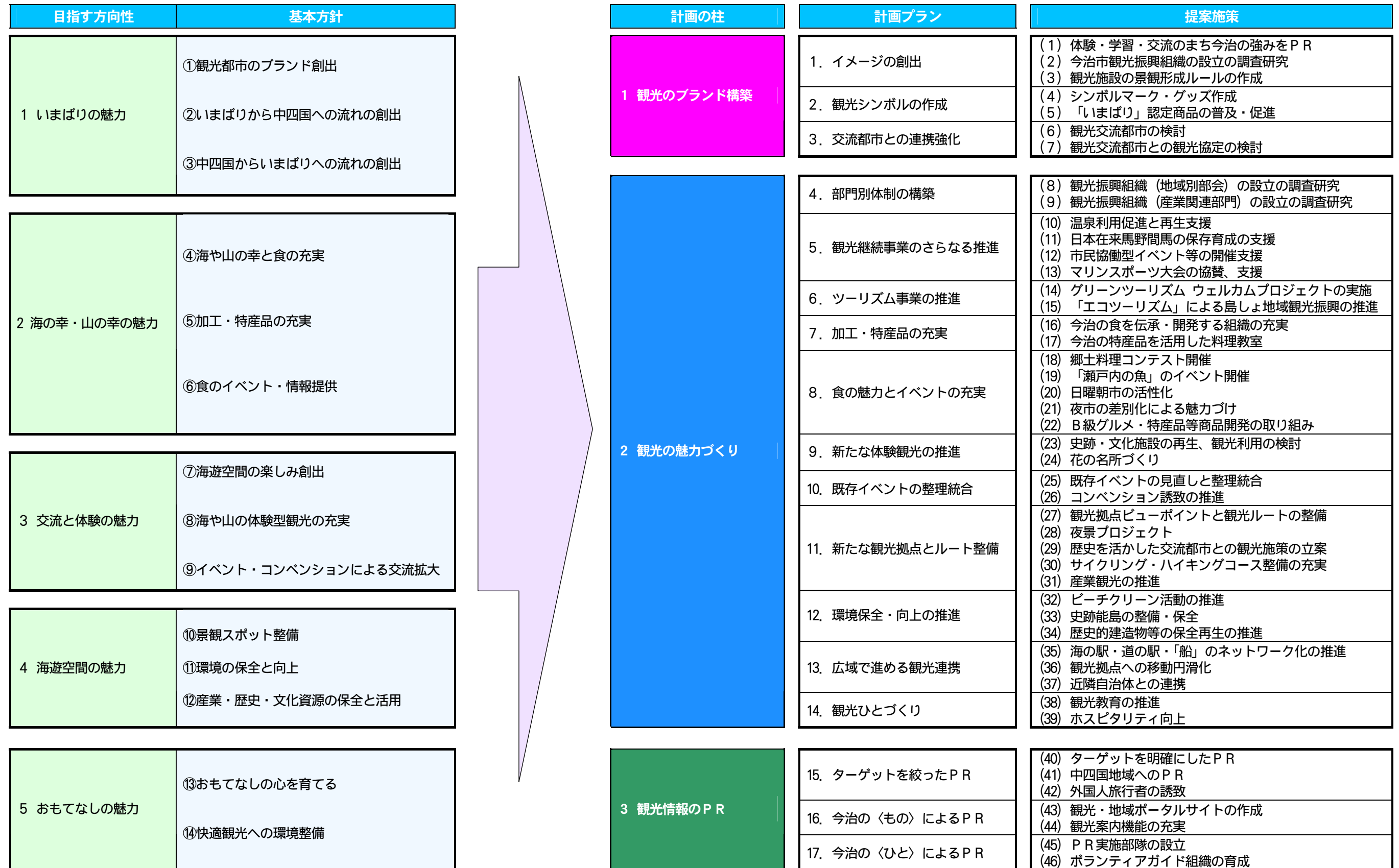
計画では、需要者つまり今治を訪れる人や市民の立場に立って、感動を予測・追求することが大切です。

(3) 観光入込客目標数値

これからの観光のまちづくりの数値目標を次のように設定します。



4-3 施策プラン図



4-4 提案施策

今治市の観光振興計画を具体化する計画プラン17項目について、提案施策と進捗イメージを示します。

進捗イメージとは、提案施策を実行した際に起きるであろう将来の今治市の観光振興の目標イメージを仮想的に表現します。

1 観光のブランド構築

計画プラン1	イメージの創出
提案施策(1) 提案施策(2) 提案施策(3)	体験・学習・交流のまち今治の強みをPR 今治市観光振興組織の設立の調査研究 観光施設の景観形成ルールを作成
計画進捗の イメージ	<p>★体験・学習・交流のまちとして、多様な自然景観資源を持つ強みを活かし、五感を魅了する観光都市のブランドが築かれていく・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光都市のブランド構築の必要性を求める意見があり、今後、営業戦略を検討し、PR活動が本格化する必要があります。 ●産業観光も増加し、食や土産品も充実しているので、今治に立ち寄っていく人が増えています。 ●景観づくりのルールも計画されつつあり、新都市の一部は分譲も開始され、美しい町並みが増えています。 ●瀬戸内しまなみ海道を活かしたグリーンツーリズム利用者も増加しつつあり、今治で商売をしたいと思う事業者、Uターンする若者などが増え、まちに活気がみなぎるようになります。 ●今治は「どこに行っても海沿いがいい」と答える人が、市内外に多く存在するようになり、今治へ観光に来ることは、多くの人にとって特別で華やかな気分させてくれるようになります。

●提案施策(1) 体験・学習・交流のまち今治の強みをPR

①拠点の位置づけとPR強化

今治の海や山の資源の強みを活かした「食」や「自然」、「産業」拠点としてPRを強化します。

②「今治の食の文化」の付加価値を高めたPRの実施

今治の食の魅力を付帯情報とし、健康やスローライフなど時代性を帯びたキーワードとともにPRします。

③体験・学習・交流ができる今治をPR

瀬戸内しまなみ海道や長い自然海岸線を有し、海がらみの楽しみを年間通して体感できる今治の強みをPRします。

④新たな観光資源をPR

産業や文化資源を既存資源と連携し、活用した新たな観光商品(事業)をPRします。

●提案施策(2) 今治市観光振興組織の設立の調査研究

①観光振興組織の検討

今治の3地域(島しょ、山里、まちなか)の個性や連携を観光視点から構築し、利用者の志向やニーズを的確に捉えた観光振興組織の調査研究をし、組織化を検討します。

②専門家の活用

専門のコンサルタントなどの意見を取り入れ、利用者の視点からの検討を行い、利用ニーズに対し全体の統一感があり、かつ、洗練された推進体制を検討します。

③市民・企業の活用

利用者が快適に観光できるように、観光スポットでのガイドや施設の維持管理に市民参加のシステムの構築や企業との連携による産業観光の仕組づくりを検討します。

●提案施策(3) 観光施設の景観形成ルールの作成

①今治らしい素材を活用する修景

黒松など既存の樹木を適宜活用したり、生垣やベンチなどを海の都である今治らしい素材や景観に配慮したものとするなど、公有地だけでなく補助金等を制度化して民有地でも積極的に修景の誘導を図ります。

②景観に配慮した海岸線や港、海水浴場のあり方の協議

漁業事業者や民間事業者等と共同で、整備のルールや色彩など、景観に配慮した港や海水浴場のあり方について協議し、景観形成に寄与する取り組みを推進します。

③海浜利用ガイドライン作成

海洋レジャー関連事業者や利用者と協働で、占用物の形態や修景、海浜利用に関するガイドラインづくりを行います。

④自然公園の利用の総合的なルールづくりの推進

環境保全と健康や観光振興を基本に、観光中心のまちづくりは一定のルールづくりを行うことにより、市民だけでなく一般観光客にとっても魅力的な公園として育みます。



▼事例

<パラソルの統一化> (神奈川県逗子市)

湘南の逗子市では、市の実施計画に海岸のパラソル統一を位置づけました。景観計画、景観条例の施行（H18）に前後して、逗子海岸の海の家の出店事業者と協力して、景観形成に取り組んでいます。

⑤観光拠点とルート沿いの景観形成

瀬戸内しまなみ海道や安芸灘とびしま海道へのルート、今治と松山を結ぶ海岸線・山間線、サイクリングコース、遍路道等のビューポイントや沿線の整備に今治市景観マスタープランを考慮しながら景観形成を推進します。

計画プラン2	
観光シンボルの作成	
提案施策(4)	シンボルマーク・グッズ作成
提案施策(5)	「いまばり」認定商品の普及・促進
計画進捗のイメージ	<p>★シンボルマークやイメージキャラクターの着ぐるみなどがイキイキとまちに溶け込んでいる・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ●シンボルマークやイメージキャラクターを開発したことにより、観光都市「いまばり」のブランドの普及が進んでいます。 ●市内業者は、シンボルマークの利用権を取得できたり、観光ポータルサイトではインターネット販売ができるといった「いまばり」ブランド認定に関心を示しています。 ●また、イメージキャラクターはスポーツイベントやお祭りなどに参加して、子供達にも人気でさまざまなイベントを盛り上げています。 ●着ぐるみマスコットが市内チームと踊りを披露して、観光振興に一役買っています。

●提案施策(4) シンボルマーク・グッズ作成

①観光都市のブランド育成

今治の観光振興を推進するときに重要なことは、観光都市のブランドとして「いまばり」を創出し向上することです。そのため、「体験、学習、交流」をキーワードとした観光都市ブランドの育成を推進します。

②シンボルマーク・グッズ作成

シンボルマークやグッズを作成するなど、一般顧客からみて「いまばり」らしさが、識別できるようにします。

●提案施策(5) 「いまばり」認定商品の普及・促進

①「いまばり」認定制度の検討

事業者、市民及び学識経験者等を交えて「いまばり」認定制度の検討を行います。

②「いまばり」認定制度の普及

魚や干物などの個別ブランドやイベントなどに対して認定を与え、普及・促進を図ります。

計画プラン3 交流都市との連携強化	
提案施策(6)	観光交流都市の検討
提案施策(7)	観光交流都市との観光協定の検討
計画進捗のイメージ	<p>★知見を外に向けることで、自分たちのまちを見直すことに・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光交流都市検討における事前調査により、歴史・文化や産業交流等の絆を大切にした交流都市は、単なる観光客の誘致だけでなく体験や交流も促進され、アピールできる強みであることがわかりました。 ●海や山、これまでの交流の実績や歴史などをきっかけに多様な都市から交流都市提携の話が舞い込んできました。 ●海外の海浜リゾート地や海を持たない地域との交流都市提携と観光施策に関する協定も結ばれ、経済面でも交流が活性化することに期待感が膨らみます。 ●かつての風情を残した風光明媚な景観を再生するまちづくり活動が盛んに行われるようになり、市民意識が向上し、海辺やまち並みが美しく修景されるきっかけにもなりました。

●提案施策(6) 観光交流都市の検討

今治市と歴史的にゆかりのある地域や海外の海浜リゾート都市や海を持たない都市と交流都市提携を結び、交流を促進します。

今治市との交流が続けられている姉妹都市として、海外はレイクランド市（アメリカ合衆国）、国内は尾道市（広島県）、太田市（群馬県）があります。これらの都市との交流も観光振興に活用しながら、新たな海外市場として中国、韓国、台湾等のアジア圏との協力関係も強化します。

●提案施策(7) 観光交流都市との観光協定の検討

観光協定は、交流だけでなく経済的な結びつきを主にすることが重要です。文化振興やスポーツ交流だけでなく、貿易、中小企業振興及び商店街活性化など市内の民間事業者の発展を意識したものとします。

▼事例

<観光協定の締結>（福井県）

福井県では、経済発展が著しい東アジアからの観光客誘致が、国内地域間競争の激化と共に極めて重要との判断から、県観光連盟は、中国浙江省、台湾政府（台湾国際教育旅行連盟）と観光協定を締結し、施策連携を図ることになりました。

（平成18年）

2 観光の魅力づくり

計画プラン4	部門別体制の構築
提案施策(8)	観光振興組織（地域別部会）の設立の調査研究
提案施策(9)	観光振興組織（産業関連部門）の設立の調査研究
計画進捗のイメージ	<p>★地域別の個性豊かな連携メニューが開発され、利用しやすいシステムが構築された・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の良さを再認識し、新たな観光資源が生まれ市民参加のシステムと一体感がある魅力が生まれました。 ●さまざまな産業分野の協力により、地域の産業と観光が連携することでオリジナルな観光メニューの提供や交流が生まれました。 ●産業関連都市との観光姉妹都市交流が生まれたことで、産業関連にも交流が拡大しています。

●提案施策(8) 観光振興組織（地域別部会）の設立の調査研究

各地域（島しょ、山里、まちなか）別の観光推進を強化するための調査研究を行うため、観光推進委員会の設置を検討します。

●提案施策(9) 観光振興組織（産業関連部門）の設立の調査研究

①資源再整備の実施

地域産業の積極的な協働に向け、過去に行政との連携やイベント開催実績のある団体にセールスを行い、新たな資源としての活用や協力を要請し観光振興の新たな連携を構築します。

②営業活動の実施

各業界などとの連携により、利用者のための観光ルートやプログラムの開発を誘導します。

③情報の充実

連携に関する内容を行政だけでなく、企業ホームページにも掲載を依頼し、観光施設など、企業のビジネス関係者にも関心を引き付ける情報提供を充実させます。

計画プラン5 観光継続事業のさらなる推進	
提案施策(10)	温泉利用促進と再生支援
提案施策(11)	日本在来馬野間馬の保存育成の支援
提案施策(12)	市民協働型イベント等の開催支援
提案施策(13)	マリンスポーツ大会の協賛、支援
計画進捗のイメージ	<p>★玉川ダムの湖畔を散策し、鈍川温泉で自然を満喫し、市民と観光客の語らいの場が生まれている・・・</p> <p>●環境学習や森林体験メニューの場として、小学生の団体が訪れています。帰りには野間馬ハイランドに立ち寄り、馬とのふれあい体験をして一日を楽しみます。</p> <p>●ヨットやウィンドサーフィン、シーカヤックなどの大会が開催され、多くの市民ボランティアに支えられてマリンスポーツ大会が開催されています。</p>

●提案施策(10) 温泉利用促進と再生支援

①温泉の活性化

四国最大の温泉地「道後」と隣接することから、鈍川地域は道後の奥座敷的地域として「秘境鈍川」として、また、松山、今治の水源である「石手川ダム」、「玉川ダム」を持つ県立自然公園地域であることから、水源涵養や自然環境学習の場として活性化を検討します。

また、湯ノ浦地域は前面に白砂青松の桜井海岸、波静かな紺碧の燧灘が広がり、海水浴や森林浴に恵まれた保養・休養に最適な温泉地であり、多彩な種類の浴槽と温水プールやトレーニングルームを併設したクアハウス今治などもあることから、これらを活かして温泉療法や各種の療法（自然療法、食事療法）などを進めます。

●提案施策(11) 日本在来馬野間馬の保存育成の支援

種の保存育成のための検討が進められている貴重な日本在来馬野間馬の保存育成を支援し、観光面でも活用します。

●提案施策(12) 市民協働型イベント等の開催支援

「水軍レース大会」や「バラまつりよしうみ」、「はかた夏まつり」、「サマーフェスティンかみうら」、「ホッと今治」等の連携活用も検討しながら開催支援を継続します。

●提案施策(13) マリンスポーツ大会の協賛、支援

①マリンスポーツ大会への協力強化

ヨット、ウィンドサーフィン、シーカヤック、ダイビングなどを行う機会を増加させるために、多様なマリンスポーツの大会を誘致し、今治の海のイメージ定着に活用します。毎年開催される「サマーフェスタinかみうら」、「はかた夏まつり」等を支援し、マリンスポーツのまちとして「海の都今治」をPRします。

②マリンスポーツ関連団体等との連携

マリンスポーツ関係者、スポーツ関係のNPOやボランティアなど各種団体との連携を密にし、誘致や運営により今治のイメージが向上する種目の選定や開催方法について協議を行います。

▼事例

<NPO法人いわてマリフィールド> (岩手県宮古市)

市民に対して、海洋スポーツと水辺活動の企画、実施、個人及び団体の行う海洋スポーツと水辺活動に対する支援を行い、海洋スポーツ普及、生涯学習への支援及び自然環境を保護することに寄与する目的で設立したスポーツNPOです。ヨット、シーカヤック、遠泳、海底植物調査、ヨットハーバーの管理運営受託などさまざまな事業を行います。スポンサーには地元企業が名を連ねています。

計画プラン6 ツーリズム事業の推進	
提案施策(14)	グリーンツーリズム ウェルカムプロジェクトの実施
提案施策(15)	「エコツーリズム」による島しょ地域観光振興の推進
計画進捗のイメージ	<p>★今治で過ごす思い出や風景のようす・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ●夏になるとその年のイベントテーマが設定され、今治市中で装いが華やかになり、至るところで観光客を迎える体制に入ります。 ●プロジェクトの目玉は、地域毎に設定された「地域食材を活かしたコンテスト」です。参加目当ての観光客が多数集まり、旅番組やグルメ番組の取材も多くなります。 ●観光客を迎えるまち並みは、グリーンツーリズム参加者や民間レジャー施設も参加し、イメージカラーによって統一され、歩くだけでもパカンス気分になります。 ●市民団体の中では、マリンスポーツに特化した総合型スポーツクラブが設立され、色々なマリンスポーツ種目のノウハウが蓄積されつつあります。 ●自然資源を生かした体験は、複数のサイクリングやハイキングコース、各種教室が開かれます。

●提案施策(14) グリーンツーリズム ウェルカムプロジェクトの実施

①総合的な歓迎ムードの演出

夏の一定期間、JR今治駅や今治港などのシンボリックな場所、海水浴場及び島しょ地域などにおいて、統一した歓迎横断幕・旗やフラワーポット、パラソルなどを設置し、まちをあげての歓迎ムードを演出します。

②グリーンツーリズム体験スタンプラリーの実施

体験メニューのスタンプラリーを行い、利用者に体験メニューの紹介と利用の拡大を図ります。

●提案施策(15) 「エコツーリズム」による島しょ地域観光振興の推進

①エコツーリズムとしての充実

グリーンツーリズムが盛んな地域を、エコツーリズムの拠点として位置づけ、農業や海の遊びが体験できる「グリーンツーリズム」「ブルーツーリズム」を充実させたプログラムづくりを行います。

②エコリゾート化へ向けた調査の実施

エコツーリズムの事業採算性や住民意向、事例などを把握するために各種調査を実施し、エコリゾート構想を策定します。

③エコリゾート化に寄与する各種施策の実施

海岸、農地、などの修景整備を進めます。また、民家や民宿の改修に際しては、建築協定や景観協定を通じてエコリゾートにふさわしい外観となるように統一性を持たせます。

計画プラン7	
加工・特産品の充実	
提案施策(16)	今治の食を伝承・開発する組織の充実
提案施策(17)	今治の特産品を活用した料理教室
計画進捗のイメージ	<p>★新しい今治をさらに印象づける・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まちなかでは、今治の素材を利用した料理教室が人気で、バスツアーも訪れています。 ●厳しい行程がかえって中高齢者に人気の四国八十八ヶ所霊場巡りとセットの愉快的なプログラムが満載のツアーで賑わいを見せています。 ●食だけでなく、海草や塩を使ったセラピーやミネラル分の豊富な化粧品の開発にも成功し、“今治”を若いOLが関心を持って訪れるようになっています。

●提案施策(16) 今治の食を伝承・開発する組織の充実

①地域別のオリジナル料理の開発検討

地域別の郷土料理やメニューの開発を行い、地域資源の活用による地域特産の観光メニューを開発します。

●提案施策(17) 今治の特産品を活用した料理教室

今治の食材を活用した加工品体験や料理教室ツアーを企画し、都市部の観光客の誘致に努めます。

計画プラン8 食の魅力とイベントの充実	
提案施策(18)	郷土料理コンテスト開催
提案施策(19)	「瀬戸内の魚」のイベント開催
提案施策(20)	日曜朝市の活性化
提案施策(21)	夜市の差別化による魅力づけ
提案施策(22)	B級グルメ・特産品等商品開発の取り組み
計画進捗のイメージ	<p>★今治で過ごすひと夏の思い出風景のようす・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクトの目玉は、「郷土料理コンテスト」です。今治中から郷土料理自慢が多数集まり腕を振るいます。観光客は、味の審査と食を楽しむイベントとして多数集まり、旅番組やグルメ番組の取材も多くなります。 ●ホテルや著名店においても郷土料理が注目のメニューとなり、今治の食のブランドになりつつあります。 ●地産の海の素材を活用したB級グルメの開発にも成功し、今治の焼鳥と抱き合わせて食べ歩きツアーをする若者が多くなっています。 ●今治の食が観光資源として際立った存在として確固たる地位を築いたのは、食に関する市民活動組織の絶え間ない試行錯誤、今治の食ブランドの確立を目的とした体験学習や給食事業、食育の大切さを根底に置いた地道な活動があったことに起因します。

●提案施策(18) 郷土料理コンテスト開催

郷土料理をテーマにした郷土料理技能オリンピック競技として国内外の料理人や学生を対象にした食コンテストを開催し、スローライフのまちとして世界にアピールします。

●提案施策(19) 「瀬戸内の魚」のイベント開催

魚の加工技術を紹介するイベントを開催し、魚のまちとして世界にアピールします。郷土料理コンテストに合わせて、連携した各種イベントも検討します。

●提案施策(20) 日曜朝市の活性化

①日曜朝市の活性化

商店街で開催されている日曜朝市を観光客が利用しやすいシステムの検討を行い、活性化させます。

②多様な人材の活用

多くの人が積極的に参加する総合的な市（いち）とすることで、来訪者だけでなく地元住民との交流の場となる仕組みとします。

③特別メニューの提供

日曜朝市でしか食せない漁師料理、季節限定料理の販売など目玉となるメニューを検討します。

●提案施策(21) 夜市の差別化による魅力づけ

①夜市の差別化による魅力づけ

夜市は、夏の季節限定で開催されているが、観光客の多い連休やイベント開催時に品揃えやメニューを変えて差別化を図り、共に違いを楽しめるイベントとします。また、音楽や演劇、野外映画鑑賞、ライトアップなど夜のにぎわいにふさわしい催しを企画します。

②夜市へのアクセス条件の向上

ホテルや民宿への送迎などアクセス（高齢者等）の利便性について各方面と連携します。

●提案施策(22) B級グルメ・特産品等商品開発の取り組み

①地域事業者との連携による開発

鮮度のよい瀬戸内の魚などを素材に事業者とともに、今治の歴史や文化などの今治らしい“うんちく”を盛り込んだB級グルメのメニューを開発します。

②多様な商品開発の実施

出張で来ているビジネスマンなどが手軽に食せる加工品（練り物が有力）を開発します。仙台「笹かまぼこ」焼津「黒はんぺん」小田原「板かまぼこ」鹿児島「薩摩揚げ」などのように地域名を盛り込んだ商品化を目指します。

また、海のリネラル（伯方の塩等）を活かした、機能性食品の開発や地元銘菓の開発を支援します。

計画プラン9 新たな体験観光の推進	
提案施策(23)	史跡・文化施設の再生、観光利用の検討
提案施策(24)	花の名所づくり
計画進捗のイメージ	<p>★今治で自然を満喫しながら、史跡・文化施設を訪れ、島での人との交流を楽しむようす・・・</p> <p>●すばらしい桜や優れた海岸線を見て、立ち寄る史跡でガイドさんの話を楽しめます。</p> <p>●立ち寄った海岸には奇麗に咲いた海浜植物が心を和ませてくれる休憩場所が整備されています。</p>

●提案施策(23) 史跡・文化施設の再生、観光利用の検討

①他事業との連携

「能島城跡整備事業」や「芸予要塞跡」、史跡整備や自然環境を活かした事業との整合、連携を図り、また、本市出身の世界的な建築家丹下健三氏の作品や隈研吾氏設計の作品も重要な資源として観光振興に活かす取り組みを進めます。

●提案施策(24) 花の名所づくり

①桜の名所づくり

既存の桜の名所を線的に結び、島しょ全体が認知される桜の名所づくり推進事業として、県道などの道路整備とあわせ、新たに桜を植樹するなど桜の名所づくりを継続的に推進します。

②休耕田の活用

休耕田等を活用した菜の花やひまわりなど、花の名所づくりを継続的に支援・推進します。

③自生種を尊重した整備

海浜植物などの自生植物群落の保全、コブシなどの並木道整備、園芸種中心の花壇整備など、場所と地域性に配慮したテーマ性のあるスポットを適宜整備します。

▼事例

<フラワーツーリズム> (千葉県館山市)

温暖な気候の千葉県南房総は、首都圏より一足早く春が訪れるために、早春の花のイメージが定着しています。しかし、季節の偏りや集客数に比して地域への経済効果が必ずしも大きくないことから、花卉生産者や宿泊事業者などが連携して、花をテーマにしたアレンジメントや料理教室などの企画を開発して、新たな観光振興に取り組んでいます。(資料) 館山市観光協会HP

計画プラン10 既存イベントの整理統合	
提案施策(25)	既存イベントの見直しと整理統合
提案施策(26)	コンベンション誘致の推進
計画進捗のイメージ	<p>★いつも今治市内のどこかでイベントが開催されているから、参加してみたいメニューを探して参加しよう・・・</p> <p>●市民協働のもとで開催されたイベントは多くの学生や企業・団体の参加が年々増加し、参加者の提案による企画も増えています。</p> <p>●来島海峡大橋のライトアップと連携した今治市の新しい夏の風物詩として、道の駅や観光スポットのライトアップや手づくり提灯で迎えてくれる市民参加型のイベントのことが話題になりつつあります。</p>

●提案施策(25) 既存イベントの見直しと整理統合

①既存イベントの見直しと整理統合

開催されている各種イベントの効果を評価し、整理統合する方向で検討を進め、「いまばり」の統一イメージを打ち出せるように年間イベントプログラムを再構築します。

②メインイベント開催と市民協働の連携検討

メインイベントの開催に市民・企業の参加促進のための支援方法や必要な組織の検討を行い、共通のロゴやグッズなどを作成し、中心市街地の求心力を高める活性化プログラムとして位置づけます。

●提案施策(26) コンベンション誘致の推進

①営業活動の実施

新たなコンベンションの積極的誘致に向け、過去に今治市で開催実績のある団体やコンベンション開催のキーマンに、重点的なセールス訪問を行うことにより、新たなコンベンションの獲得や、他の主催団体・コンベンションの情報収集等を図ります。

②アフターコンベンションのPR

旅行業界などとの連携により、アフターコンベンションのための観光ルートやプログラムの開発を誘導します。

③コンベンション情報の充実

コンベンションに関するホームページを開設し、開催実績、スケジュール、市内施設、観光施設など、主催者の関心を引きつける情報を充実させます。

計画プラン11 新たな観光拠点とルート整備	
提案施策(27)	観光拠点ビューポイントと観光ルートの整備
提案施策(28)	夜景プロジェクト
提案施策(29)	歴史を活かした交流都市との観光施策の立案
提案施策(30)	サイクリング・ハイキングコース整備の充実
提案施策(31)	産業観光の推進
計画進捗のイメージ	<p>★海や山に親しむ機会が増え、市民も景観に関心を示していく・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海岸の道路は曲がりくねった箇所が多く、視界も開けているわけではないが、次々と現れる入り江からは、多様な表情の瀬戸内海をみることが出来ます。 ●途中途中で、眺望景観を味わうことのできるスポットが整備され、ドライバーの疲れを癒す場となっています。また、どのスポットも四季折々の花で、さりげなく旅行者をもてなしています。 ●大西、菊間経由で松山に抜けるルートが人気のドライブコースとして認知され、沿道には花が植えられ、海を眺めることのできる洒落たカフェや地場産品の販売所なども立地するようになります。 ●市内の工場が市民をはじめ観光客を気軽に受け入れ、楽しく生産工程などを見学できることが話題になり、産業観光が定着し始めています。

●提案施策(27) 観光拠点ビューポイントと観光ルートの整備

①ビューポイントの充実

特に山里地域は、島しょ地域と比較してビューポイント整備が遅れているので、県道、市道等の道路整備とあわせ、眺望できるポイントを重点的に整備します。

②ビューポイントの便益施設整備

島しょ地域においても整備に際しては、過剰な維持管理がかからないように適切に駐車場と便益施設の整備を行います。

③ハイキングコースとの連携

自然公園内のハイキングコースと連携してビューポイントの整備を行い、整備後は、各ポイントの特徴を簡潔にまとめて情報発信し、ドライブやハイキングといった移動型のレジャー活動との連携を進めます。

●提案施策(28) 夜景プロジェクト

①ビューポイントの充実

今治市の夜景は、市街地の灯り、主要幹線道路を走る車のライトの帯、瀬戸内しまな

み海道等がコントラストを織り成し、大変美しい景観を作り出します。この夜景を眺望するスポットとして市街地に位置する近見山、糸山、亀老山、カレイ山は絶好の場所です。現在のところ、アクセス面等で課題も多いが、近見山を今治の夜景スポットとして活用することは、本市の夜のにぎわいづくりには大変重要であるため、夜景スポットの整備に向け検討を行います。

また、糸山については、恋人たちのデートスポットとして来島海峡大橋のライトアップに合わせて冬期にイルミネーションで飾ることなども検討します。

②夜間の回遊性の創出

今後は来島海峡大橋のライトアップを活用し、島しょ地域全体に町並みの夜景が観光の資源となるよう検討し、夜間の回遊性に繋がるように取り組みます。

●提案施策(29) 歴史を活かした交流都市との観光施策の立案

①歴史交流都市との連携

歴史資源の豊富な今治市の時代背景を検証し、さまざまな歴史研究や学習、また、研究家の交流の場として活用できる仕組の検討を行います。

●提案施策(30) サイクリング・ハイキングコース整備の充実

①既存のレンタサイクル運営体制の検討

乗り捨てシステムなどで利用者から好評を得ている現在のレンタサイクルシステムを、新しい観光施策の取り組みに併せて、貸し出しターミナル等の新たな設置や管理運営体制など利用者や市民協働推進の視点から検討を行います。

②サイクリング・ハイキングコースの見直し

サイクリングシステムを今治市全体の連携活用が利用者に求められ、多彩なコースシステムを検討します。

③快適なコース整備の実施

自然公園の遊歩道など市内のハイキングコースは、歩道をウッドチップなど歩きやすい環境に整備したり、道標や案内看板を立てるなど、コースの利用を促進するための整備を行います。

④市民団体との連携の促進

草木伐採や簡単な修復作業といった維持管理は、市民活動団体などとの協力により、年間を通して計画的に行います。

●提案施策(31) 産業観光の推進

①産業観光に対する理解の促進

市内に進出する工場に対しては、市民をはじめ観光客が気軽に楽しく生産工程などを

見学できるコースや憩いのスペースを設けるなど、健康と環境を軸としながらも産業観光に配慮した施設運営を行うように誘導します。また、既存の市内企業にも、同様の整備を推進するように働きかけます。

②既存事業との連携

体験観光として、既存のタオル美術館ICHIHIROや日本食研㈱の体験ツアー、伯方塩業㈱、桜井漆器会館などを有効活用します。

計画プラン12 環境保全・向上の推進	
提案施策(32)	ビーチクリーン活動の推進
提案施策(33)	史跡能島の整備・保全
提案施策(34)	歴史的建造物等の保全再生の推進
計画進捗のイメージ	<p>★ダイナミックな造船や石切り場の迫力に観光客の目が釘づけとなって、新たな話題が広がっている・・・</p> <p>●市民や企業などが楽しみながら社会貢献活動を行えるようなプログラム化が図られ、活動のポイントカードも普及し、多くの参加によるビーチクリーン活動が実施されて快適な海岸が維持されるようになりました。</p> <p>●市民もなじみの薄かった渚100選など、サインや広報の充実により理解が深まり、保全活動も盛んになりつつあります。</p>

●提案施策(32) ビーチクリーン活動の推進

①ビーチクリーン活動開催支援の充実

浜の環境保全と啓発を目的に、各種団体や個人、企業のビーチクリーン活動を積極的に支援します。

②参加を促すプログラムの検討

エコツーリズムの清掃活動に位置づけ、開催される夏祭りや各種イベント時やゴミのイベントを開催するなど、市民や企業などが楽しみながら社会貢献活動を行えるようなプログラム化を図ります。

活動への参加実績が商店街のポイントカードに加算されるなど、多様な参加の仕組みについて検討します。

●提案施策(33) 史跡能島の整備・保全

①保全推進の仕組みづくり

能島城跡整備計画や多くの史跡保全計画を基に、各種100選にも選ばれている資源を保全する仕組みを検討します。

②既存事業との連携

各種整備や保全事業との連携を図り、史跡資源を有効に活用します。

●提案施策(34) 歴史的建造物等の保全再生の推進

①今治城保全・活用の推進

今治城は、本丸、二ノ丸、内堀と石垣等、市の観光と文化のシンボルとなっています。

瀬戸内しまなみ海道開通を契機に今治城のライトアップも設置され、今後も今治の代表的な観光施設として保全活用を推進します。

②散策コース整備の推進

港再生事業との連携を検討し、歴史性豊かな裏路地の調査・整備を検討、歴史的な地域資源の活用などの取り組みを進めます。

③和のイベントの充実

和菓子や和装関連業界、茶道や華道、漆器、能・狂言等の文化団体と連携したイベント開催を検討し、城下町今治に根づく日本の伝統文化（和文化）をPRします。

計画プラン13 広域で進める観光連携	
提案施策(35)	海の駅・道の駅・「船」のネットワーク化の推進
提案施策(36)	観光拠点への移動円滑化
提案施策(37)	近隣自治体との連携
計画進捗のイメージ	<p>★市民にも幅広く利用される地域密着型の施設に・・・</p> <p>レンタサイクルも行政の枠を越えた観光客の利用しやすいステーションになり、利用者が増えている・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中四国の地域との情報交流も活発で、宿や温泉情報などを検索予約できる体制が取られています。渋滞など交通情報も広い地域でリンクされています。 ●今治観光の情報発信基地として、「海の駅」や「道の駅」は連日鮮品等が届き、訪問客で賑わっています。 ●海の駅、道の駅には海や山の幸を手軽に買うことができる商品構成がされており、ドライブ旅行や船を利用し各施設を楽しく回遊できます。 ●地域にも開かれた施設となり公民館のような地域の交流の場としての役割も果たしています。 ●多彩なサイクリングコースや船を活用したコースが設定され、移動型観光が充実したことで多くの利用者に好評です。 ●JRの各駅や港からの観光客に対する観光情報の提供がなされ、観光客にも好評です。 ●近隣自治体との新たな観光メニューも検討されはじめています。

●提案施策(35) 海の駅・道の駅・「船」のネットワーク化の推進

①各地区の連携整備

道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や市民のための「情報発信機能」などを備える“道の駅”や海上の同様機能としての“海の駅”や「船」の情報をつなぐことで、観光客が利用しやすい場所を目指す必要があります。

②相互情報網の充実

地域内にある道の駅、海の駅を観光情報の拠点として有効活用するために、インターネット環境やライブ中継設備等を整備して、今治全域の観光情報や道の駅の利用状況等が受発信できるようにします。

③ソフトプログラムの充実化

スタンプラリーなど共同キャンペーンを実施し、各地域を楽しく快適に移動するためのプログラム化を図ります。

●提案施策(36) 観光拠点への移動円滑化**①港のまちをイメージした修景による歩行空間の快適化**

港再生整備事業で行う港前広場の改修では、海のまちのイメージを強化した修景とします。沿道には、海のまちをイメージしたベンチやサイン、彫刻や植栽など、楽しく歩ける仕掛けを整備するとともに、バリアフリーに配慮した整備を行います。

②各種交通手段のあり方の検討

将来性を勘案して、バス・船・鉄道事業者や漁港関係者、市民の意向を把握し、採算性を考慮した交通手段のあり方を検討します。

JR今治駅や今治港周辺など観光の起終点になる場所と、各地域の主要観光施設を結ぶ観光専門の輸送船や乗合バスなどの移動手段や待ち時間短縮について検討します。

③レンタサイクルシステムの検討

市内のレンタサイクルシステムをステーション、管理方式、管理組織等について利用者や管理者の意見を考慮しながら再検討し、利用の拡大や適正管理を行います。

④各種サービスの充実化

今治市内の交通事業者との連携を促し、共通パスポートなどの移動円滑化をサポートするサービスを企画、検討します。

道の駅や鉄道各駅、近隣自治体の観光協会や主要観光施設において、今治の魅力を盛り込んだポスターやパンフレット等を通じてのPRを充実します。

●提案施策(37) 近隣自治体との連携**①四国および中国地域全体のプロモーションの実施**

近隣自治体と観光振興面において連携し、海と山、食や温泉など個々に強みとなる個性を売り込みながら四国地域全体のプロモーションを図ります。

②景観に配慮した道路整備の実施

快適なドライブを促す仕掛けとして、フラワーロード、共通サインの設置など道路整備について、国や県と連携を図りながら景観に配慮した整備を行います。

③近隣自治体等との連携強化

大河ドラマの放映や国民体育大会開催など、大きな集客が見込めるイベントでは、近隣自治体との結びつきを進め、共同でPRします。

④安芸灘とびしま海道連携強化

開通した「安芸灘とびしま海道」を活用しての新たな観光ネットワークの可能性や広島県との連携強化を検討します。

計画プラン14	
観光ひとづくり	
提案施策(38)	観光教育の推進
提案施策(39)	ホスピタリティ向上
計画進捗のイメージ	<p>★人づくりの基本ともいうべき学校教育にも「今治の暮らし」への観光に関する記載も行われ、ますます市民の関心が高まりつつある・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ●島しょ地域や山里地域の観光資源を子供達が相互理解し、夏休み等交流も増えています。 ●「今治学」のプログラム化を図り、学ぶ機会を提供したことで生涯学習と観光振興が相互理解されボランティアも増加しています。 ●ホテル・旅館、レストラン、タクシー、商店等、観光客の受け入れに関連する研修など教育制度を創設し、「みんなで取り組む」観光振興が理解され始めています。

●提案施策(38) 観光教育の推進

①「今治の暮らし」への観光に関する記載

市内小学校に配布されている社会科副読本「今治の暮らし」に、本市の観光について紹介する記事を掲載します。

②生涯学習の充実

まちに対するブランド意識や郷土意識の醸成を図る目的で、今治の自然、人、歴史、民俗学などを学び、地域活性化や地域づくりへの動機づけを与えるご当地検定などの取り組みを強化します。

「今治学」を社会人向け講座として大学・大学院と連携しつつ、市内の郷土史家や各種NPO、ボランティア団体、漁師、各種職人など多様な人材を講師陣としたプログラム化を図り、生涯学習及び観光振興の一環として行います。

●提案施策(39) ホスピタリティ向上

①ホスピタリティに関する教育制度の創設

ホテル・旅館、レストラン、タクシー、商店等、観光客の受け入れに関連する業界団体等を通じて連携し、ホスピタリティ向上のための研修など統一した教育制度を創設し、「みんなで取り組む」観光振興を検討します。

②市民が観光ボランティアについて学ぶ機会の創出

ご当地検定との連携を図り、市民団体やボランティアに対しても、観光振興のあり方から来訪者への好ましい接し方などを学ぶ教育機会の充実を図ります。

3 観光情報のPR

計画プラン15	ターゲットを絞ったPR
提案施策(40) 提案施策(41) 提案施策(42)	ターゲットを明確にしたPR 中四国地域へのPR 外国人旅行者の誘致
計画進捗の イメージ	<p>★女性のライフスタイルや中高齢者向けターゲットを明確にした効果が表れ新たな企画の利用者が増加している・・・</p> <p>●個性あふれるメニューが紹介され、地域別の連携も利用者に好評です。</p> <p>●西部丘陵公園の里山体験等、子供たちの利用メニューも充実し、四国内の学校や団体による体験学習も増加しています。</p>

●提案施策(40) ターゲットを明確にしたPR

①各種媒体へのPR

女性のライフスタイル誌や中高齢者向け旅行誌など、ターゲットを明確にした媒体に「いまばり特集」などの企画を売り込み、年代や対象別に今治の良さ、楽しみ方を紹介します。

②他の地域と差別化したPR

3地域（島しょ、山里、まちなか）の個性を地域別に、特産品や体験、交流、学習など、今治のなかでも“ちょっと違う”部分を魅力のポイントとして観光振興を図ります。

③観光学を研究する大学、短大等との連携

若者の視点で地域の観光について考え、提案型の学生コンペ等により地域活性化を図ります。

●提案施策(41) 中四国地域へのPR

①中四国圏に対して、豊富な食資源および今治の特異性をアピールします。また、海資源を活かした体験メニューを中心に、学校などへ本市への遠足や修学旅行、社会見学等の誘致を行います。

②アンテナショップの運営

中四国及び関東・京阪神地域の商店街と連携し、空き店舗を活用したアンテナショップの委託販売および観光案内について検討します。

●提案施策(42) 外国人旅行者の誘致

①具体的な素材を活用したPR

自然や今治の食をセットでPRする等、今治へ足を伸ばしてもらうため、各種媒体への具体的な売込みを行います。

②在住外国人でのPR

今治はアジア圏域からのビジネス関係滞在者も多いことから、今治市国際交流協会と連携して、これらの人的資源を活用した「クチコミ」のPRの可能性を検討します。

また、バックパッカー*など外国人旅行者に対応した格安宿が提供出来るシステムも検討しPRを行います。

③ユニバーサルデザインの導入

外国語表記のある観光案内板を整備します。

④外国語パンフレットの充実を図ります

英語版をはじめとした、中国・韓国語版など多数の言語版の観光パンフレットを作成し、外国からの旅行者の誘致に努めます。

*バックパッカー：1960年代から欧米で流行しはじめ、航空券の低価格化と共に世界の若者の旅装の代表となった。バックパッカーの多くは、ゲストハウスやユースホステルなどの安宿に宿泊し旅費を節約している。比較的安価で泊まれるゲストハウス、ユースホステル、ドミトリ一等の安宿に宿泊することが多い。

計画プラン16 今治の〈もの〉によるPR	
提案施策(43)	観光・地域ポータルサイトの作成
提案施策(44)	観光案内機能の充実
計画進捗のイメージ	<p>★観光情報を、宿泊、土産、行政情報等官民間問わず一元化された地域ポータルサイトが観光客に好評で多くの観光客が利用している・・・</p> <p>●広域観光の情報もネットワークされ利用者に好評です。</p> <p>●観光サインや観光案内所が整備され、利用時間毎のメニューも提供され、利用者から好評です。</p>

●提案施策(43) 観光・地域ポータルサイトの作成

今治を観光等の目的により訪れる際、必要となる情報を、宿泊、土産、行政情報等官民間問わず一元化された地域ポータルサイトから閲覧できるような仕組みづくりについて検討します。

●提案施策(44) 観光案内機能の充実

①観光案内サイン等の整備

目的地へ円滑に移動することができ、安心して気軽に観光できるように、景観に合う統一した案内サインの整備や訪問客を温かく迎える歓迎標示や多言語標示等の機能充実に図ります。

②観光案内所の充実

市内にある観光案内所では、ソフト・ハード両面において観光案内業務の充実化を図り、利用者が気軽にわかりやすい観光情報を得ることができるような取り組みを進めます。

計画プラン17	
今治の〈ひと〉によるPR	
提案施策(45)	PR実施部隊の設立
提案施策(46)	ボランティアガイドの育成
計画進捗のイメージ	<p>★「(仮称)今治セールスサポーターズ」の設立の機運が高まり、自主的なセールス活動、ホスピタリティ提供を支援する仕組が生まれつつあり、観光に関する市民の関心が高まりつつある・・・</p> <p>●市民の自主的なセールス活動、ホスピタリティ提供を支援する組織が生まれつつあり、今後の活動が期待され市でも支援策の検討が始められています。</p> <p>●観光案内所のスタッフ教育を系統立てプログラム化し、今治観光のスペシャリストを教育する組織が設立されようとしています。</p>

●提案施策(45) PR実施部隊の設立

①組織の立ち上げ

自主的なセールス活動、ホスピタリティ提供を支援する「(仮称)今治セールスサポーターズ」を立ち上げます。NPO法人格を取得するなど、永続的な団体となるように整備します。

②既存事業の推進

PR既存事業の取り組みを推進します。

●提案施策(46) ボランティアガイドの育成

①観光案内所スタッフの教育強化

観光案内所のスタッフ教育を系統立てプログラム化し、今治観光のスペシャリストとして育成します。

②多様な人材の活用

全国的な規模の大会開催等において案内機能を十分に発揮できるように、やる気があり、思いやりを持った市民を採用するなど多様な人材を受け入れます。

付属資料

今治市観光振興計画策定の経緯

策定経緯	開催日・内容
第1回 策定委員会開催	平成20年7月7日（月） （委員会設置・開催方法の決定）
現地視察学習会開催	平成20年8月19日（火） （観光資源の現地視察）
第2回 策定委員会開催	平成20年9月11日（木） （現状整理・課題の抽出）
第3回 策定委員会開催	平成20年10月15日（水） （課題の抽出と計画方針の検討）
第4回 策定委員会開催	平成20年12月22日（月） （課題の抽出と実施計画案の検討）
計画（案）委員配布	平成21年1月22日（木）
パブリックコメント募集開始	平成21年1月23日（金）
パブリックコメント締め切り	平成21年2月13日（金）
第5回 策定委員会開催	平成21年2月26日（木） （計画案のとりまとめ）
市長へ答申	平成21年3月3日（火）

今治市観光振興計画策定委員会委員名簿

(氏名は五十音順・敬称略)

担 当	氏 名	役 職・公 募
委 員	石村 清人	四国旅客鉄道株式会社 今治駅長
〃	小山田憲正	四国霊場五十八番札所 仙遊寺 住職 へんろ道文化世界遺産化の会代表
〃	菅 孝 司	瀬戸内しまなみコンシェルジュ運営委員会 会長
〃	菊 川 清	今治郷土料理普及協議会 会長
〃	桑 原 文	今治明德短期大学 学生
〃	十倉 秀樹	タオル美術館 ICHIRO ーフマネージャー
副委員長	西部 知香	しまなみグリーンツーリズム推進協議会 会長
委 員	美藤 寛典	公募委員
〃	フンク・カロリン	広島大学大学院総合科学研究科 准教授
〃	前田 美加	公募委員
〃	村上 正郎	今治史談会 会長
委員長	村 田 武	愛媛大学社会連携推進機構 特命教授
委 員	山 本 聖	株式会社 小田急百貨店 商品統括部服飾品商品部 マーチャンダイザー
〃	渡邊 政勝	今治市 産業振興部長

今治市観光振興計画

平成 21 年 3 月

発行 今治市

〒794-8511 今治市別宮町 1 丁目 4 番地 1

TEL (0898)36-1541

編集 今治市産業振興部観光課